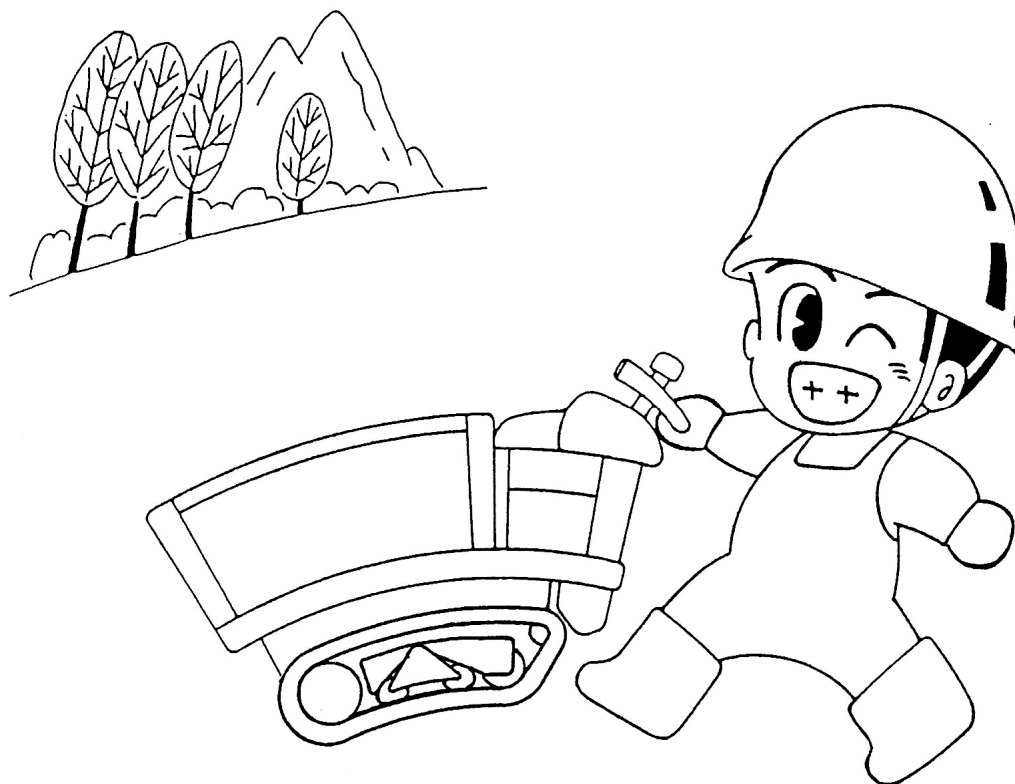


クローラ型運搬車

取扱説明書



XS800LAD

ご使用前の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

- このたびは、本製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書は、本製品を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項及び、最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。
- 本製品を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。説明書を紛失・損傷された場合は、速やかにお買い上げいただきました販売店・特約店にご注文ください。
- 本製品を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しくください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全性の向上のため使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及びイラストなどの一部が本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただきました販売店・特約店にご相談ください。
- 取扱説明書の中の **⚠重要** 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しています。よくお読みいただき、必ず守って下さい。

表 示	重 要 度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

⚠注意

- 本製品は、圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

目次

重要・安全ポイントについて	2
安全表示ラベルの注意	3~4
安全のポイント	5
安全な作業をするために	5~16
保証とサービス	17
各部の名称とはたらき	18
各部の名称	18
操作レバーの名称とはたらき	19~23
作業前の準備	24
使用前の点検について	24
作業のしかた	25
運転操作の要領	25~32
積載要領	33
点検・整備	34~40
各部の調整および交換	41~47
手入れと格納	48~49
不調時の対応のしかた	50~52
作業を安全におこなうために	53
一般共通事項	53~55
サービス資料	56
主要諸元	56
外観図	57
配線図	58
注文部品の紹介	59
主な消耗品	59
索引	60

重要・安全ポイントについて

1. 路肩・軟弱地で使用するときは、
転落・転倒しないように十分注意します。


2. 作業や移動をするときは、
急発進・急旋回は避けてください。

3. 運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。

4. 点検・調整をするときは、
必ず原動機を止め、機械の停止を待ってください。

5. 補助者と共同作業を行うときは、
合図をし、安全を確認します。

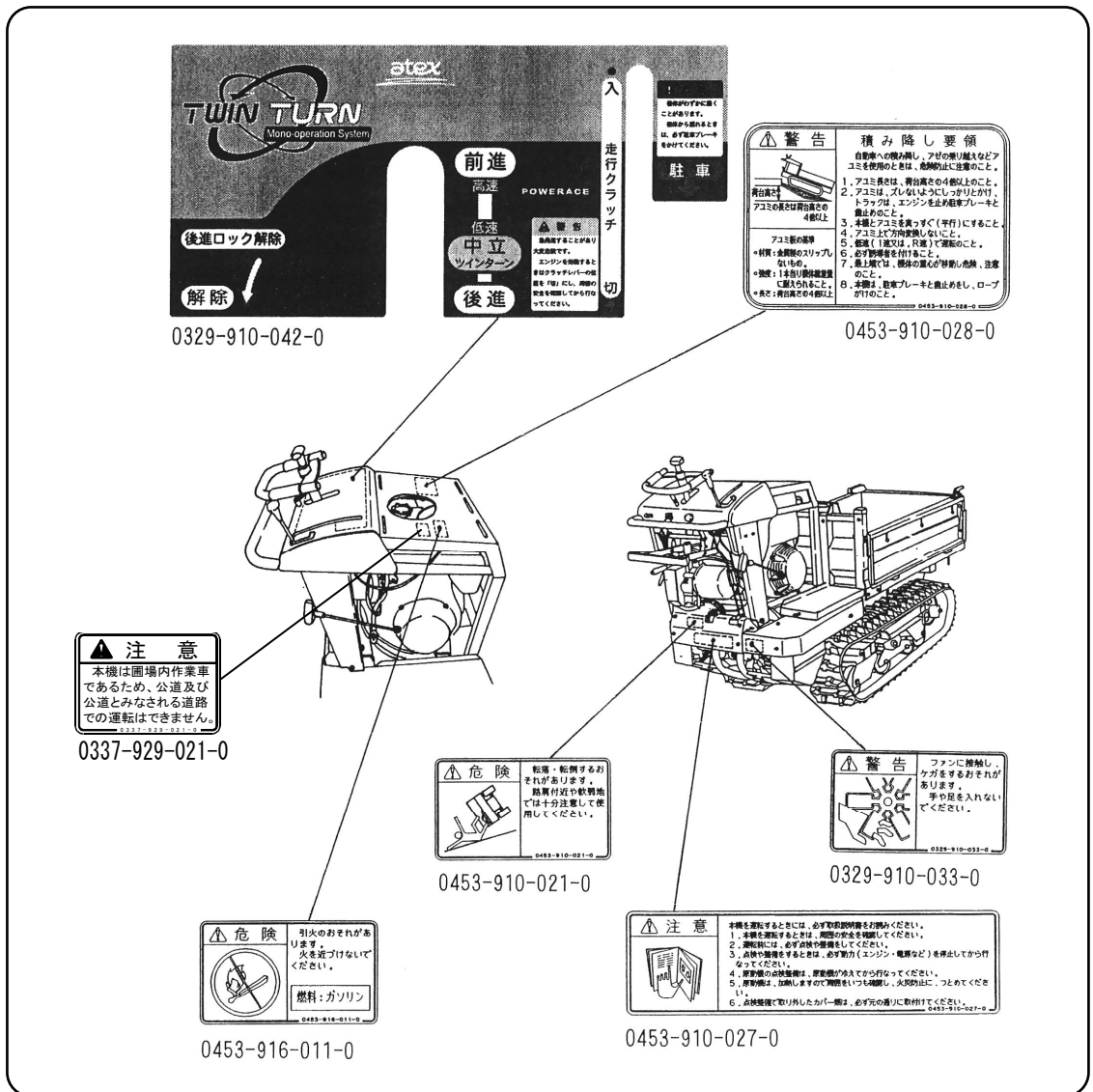
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい事項に  **重要** を付して説明の都度取り上げております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

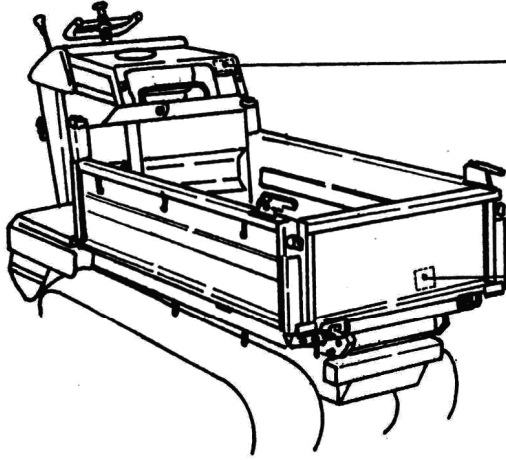
安全表示ラベルの注意

- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた販売店・特約店へ注文してください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店・特約店へ注文してください。

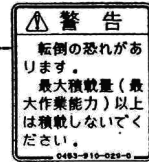
安全表示ラベル貼付位置



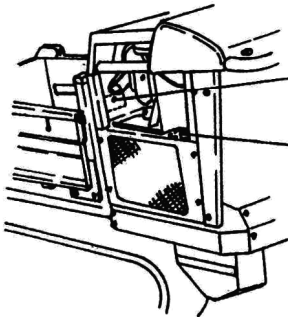
安全表示ラベル貼付位置



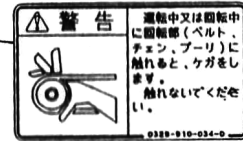
0453-910-024-0



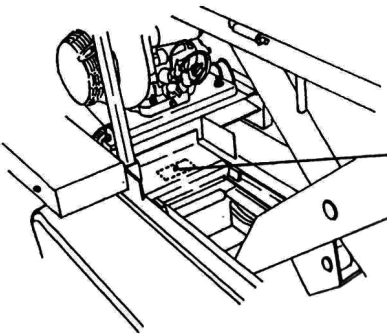
0453-910-029-0



0453-910-022-0



0329-910-034-0



0453-910-023-0

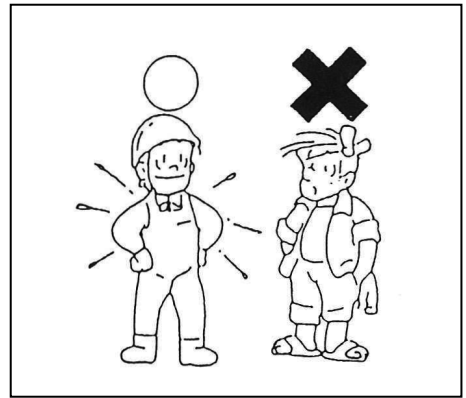
安全のポイント

安全な作業をするために

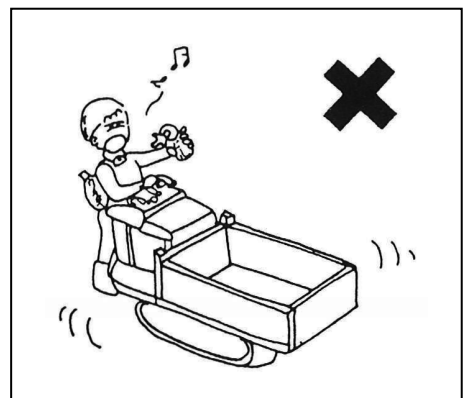
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

■運転者の条件

- (1) 服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪くと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。
ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

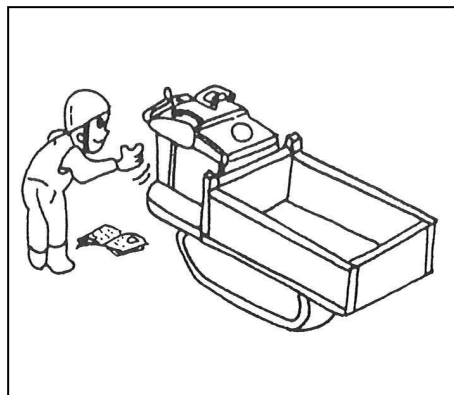


- (2) 飲酒時や過労ぎみの時、または妊娠している人、子供など未熟者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行うと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

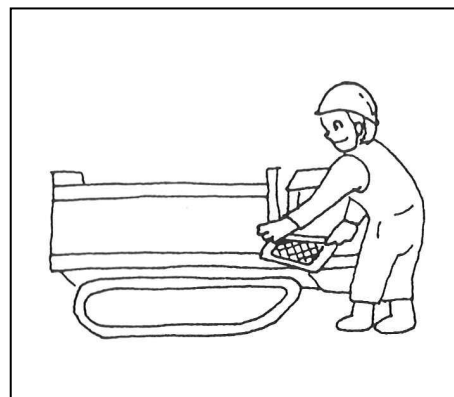


■作業前に

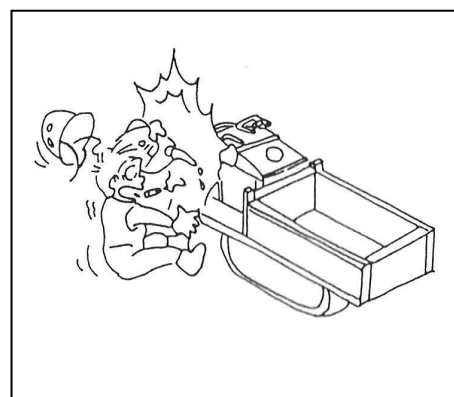
- (1) 作業する前に、本書の「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠るとブレーキの効が悪かったり、クラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



- (2) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出していて大変危険です。

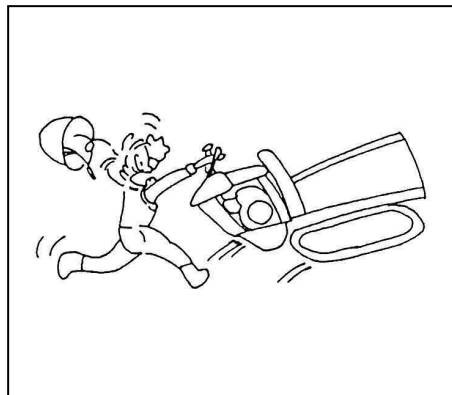


- (3) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行い、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

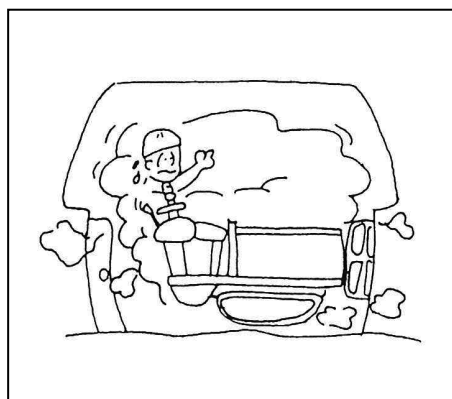


■ 始動と発進は

- (1) エンジン始動時は、走行レバーを「切」に、また発進時は、各レバー位置と周囲の安全を確かめてゆっくりと発進してください。急発進は危険です。

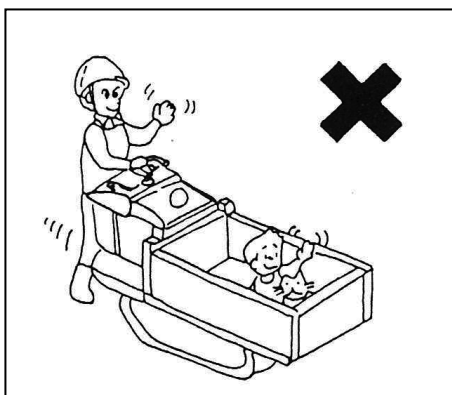


- (2) 室内でエンジンをかけるときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排ガス中毒を起こし大変危険です。



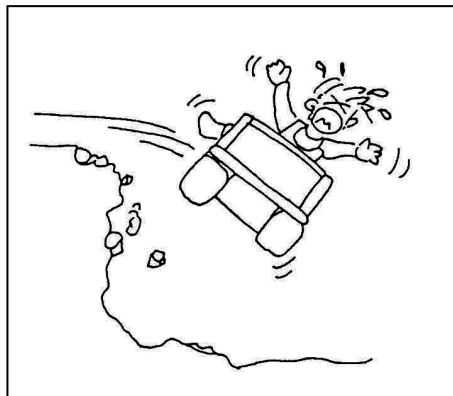
■ 走行するときは

- (1) いかなる場合も、本機の上に人や動物を乗せないでください。作業の際はもちろん走行中の急旋回、重心の移動等により大変危険です。

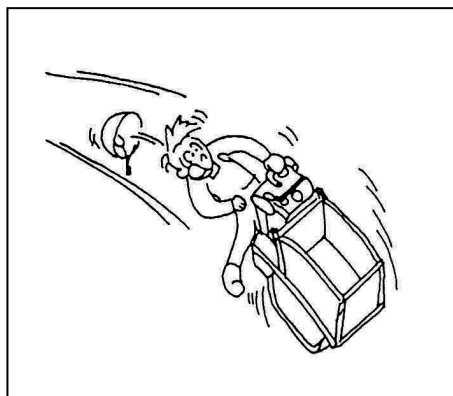


安全のポイント

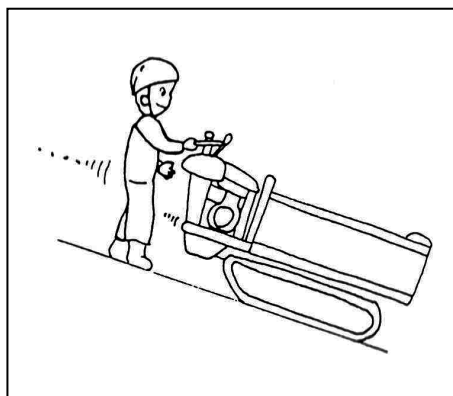
- (2) 凹凸の激しい所・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を十分に落とし安全な速度で運転してください。衝突・転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



- (3) 傾斜地は、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてターンハンドルを操作した場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあります大変危険です。

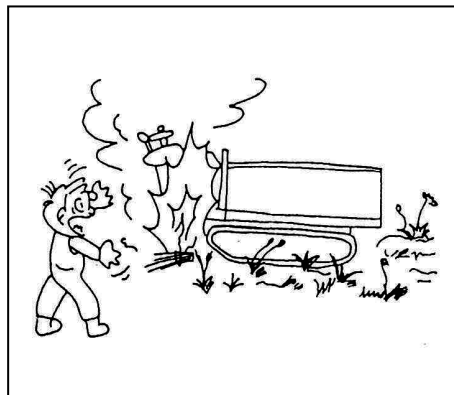


- (4) 坂道では、低速でゆっくりと、また、下るときはエンジブブレーキをかけてください。

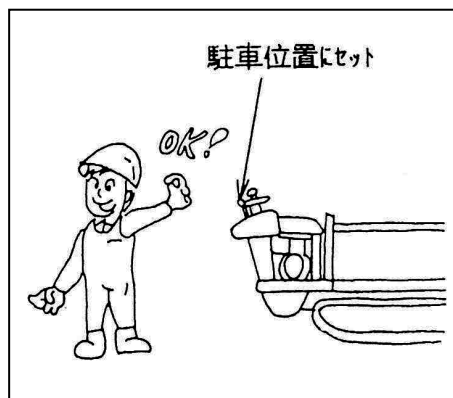


安全のポイント

- (5) 草やワラ等可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となります。

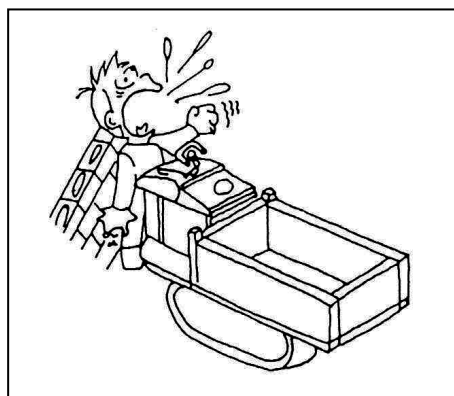


- (6) 停車場所は広く硬い所を選んでください。また、本機から離れるときは、走行クラッチレバーを「駐車」位置にセットしてください。これを怠ると機体が自然に動き出すなど大変危険です。



- (7) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。特に後進時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。

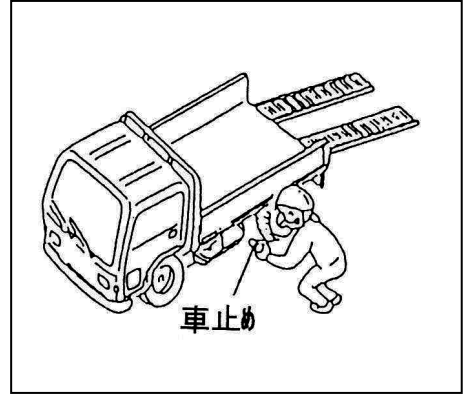
本機には、狭圧防止装置が付いていますが十分注意してください。



安全のポイント

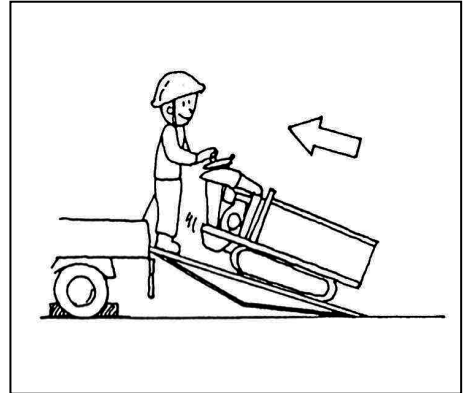
■積込み・積降ろし

- (1) トラックはエンジンを止め、動かないよう駐車ブレーキ・車止めをしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。



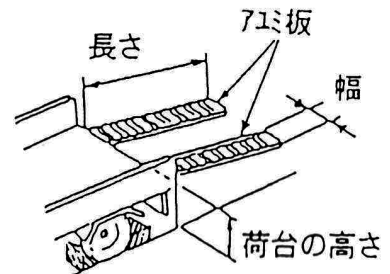
- (2) 積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定め、微速にて行ってください。アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。

また、途中でエンストしないように、高スロットルにして、変速レバーの調節で、微速にて行ってください。



< アユミ板の基準 >

- 長さ…車の荷台の高さの4倍以上
- 幅…本機クローラの1.5倍以上
- 強度…車体総重量の1.5倍以上（1本当り）
- すべらないよう処理されていること。



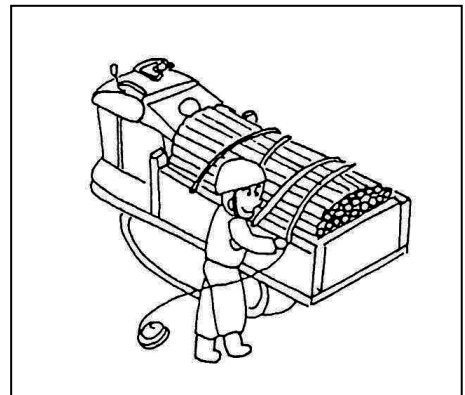
安全のポイント

- (3) 万一、途中でエンストした場合は、走行クラッチレバーを素早く「駐車」位置にセットしてください。改めてエンジン始動方法に従ってエンジンを始動させてから行ってください。

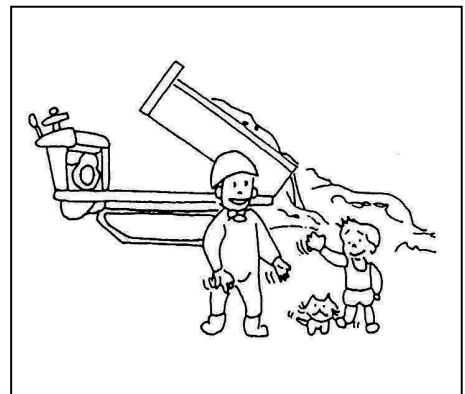


■作業中は

- (1) 積載制限を守り、ロープ等により積載物が移動しないようしっかりと荷台に固定してください。過積載は、操作ミスを引き起こし大変危険です。

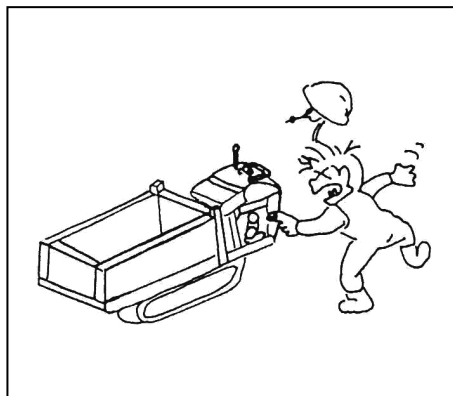


- (2) ダンプ作業など、作業を開始するときは必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



安全のポイント

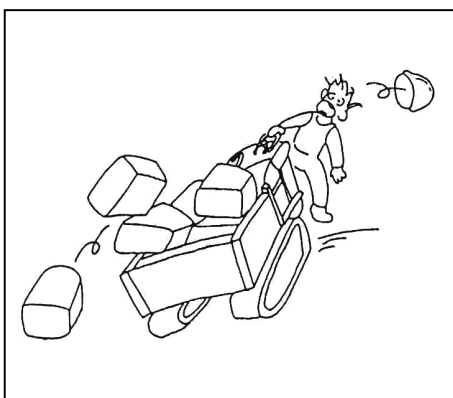
- (3) 運転中は、回転部やエンジン・マフラー等の高温部など危険な箇所には手や体を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



- (4) 溝の横断や段差乗り越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・段差と直角にゆっくりと走行してください。これを怠ると脱輪やスリップ等により転倒する恐れがあり大変危険です。



- (5) 荷を積むときは、重心が機体の中央になるよう、また重心が高くならないようにしましょう。重心が高くなったり、かたよると転倒の原因となり大変危険です。

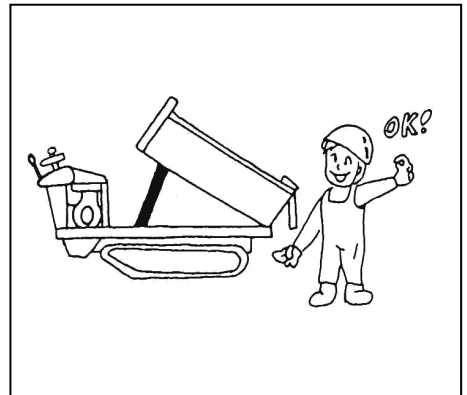


■点検整備は

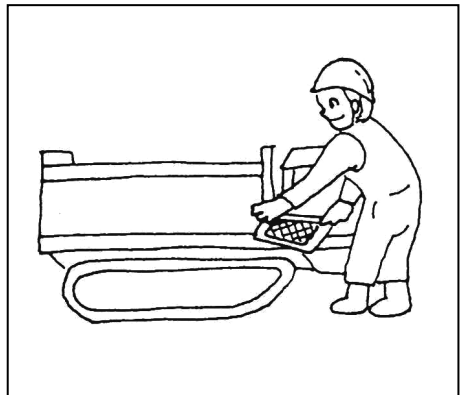
- (1) エンジンを切つてすぐに、点検整備を
してはいけません。エンジンなどの過熱部が
完全に冷えてから行ってください。怠ると、
火傷などの原因となります。



- (2) 点検整備をするときは、必ずエンジンを停
止し、駐車ブレーキをかけて行ってください。
荷台をダンプさせて点検整備をする場合は、
十分に強度のある木材等で降下防止策を施
してください。これを怠ると急に荷台が落
下し、はさまれるなど大変危険です。

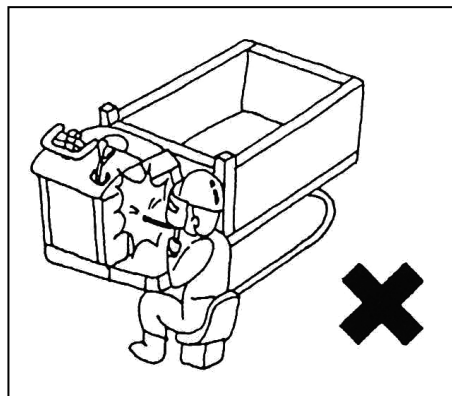


- (3) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必
ず元の通りに取り付けてください。回転部や
過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因と
なり大変危険です。



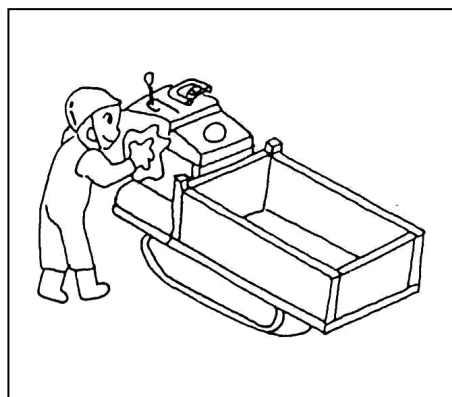
安全のポイント

- (4) 機械の改造は絶対にしないでください。
機械の故障や事故の原因になり大変危険
です。

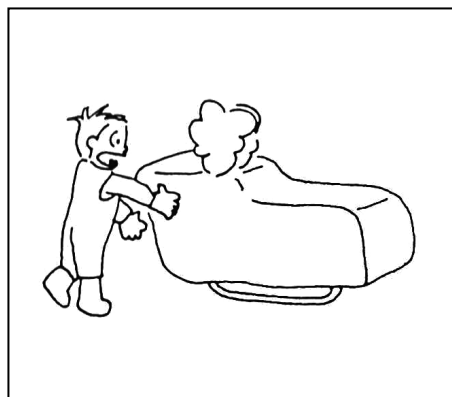


■保管・格納は

- (1) エンジンを停止し、機体に付着したドロ
やゴミ等をきれいに取り除いてください。
特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは
火災の原因となります。必ず取り除いてく
ださい。

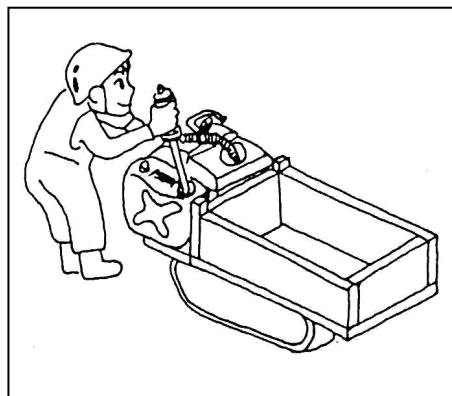


- (2) 子供などが容易に触れないようにカバー
をするか、格納庫に入れて保管してくださ
い。カバー類をかける場合は、高温部が完
全に冷えてから行ってください。熱いうち
にカバー類をかけると火災の原因となりま
す。

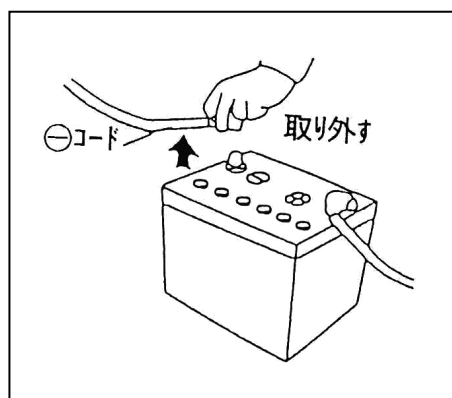


安全のポイント

- (3) 長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

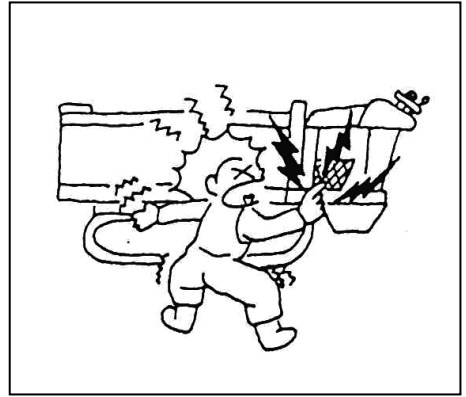


- (4) 長期格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないとケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。

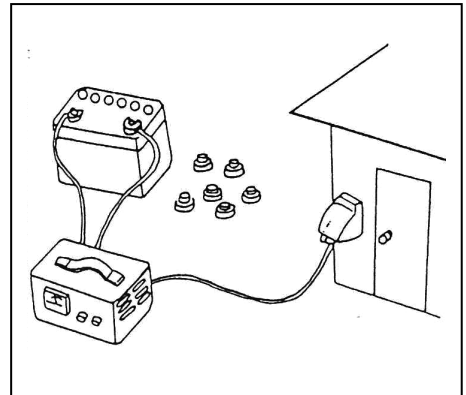


■電装品の取扱い

- (1) 電気配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの ⊖ コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



- (2) バッテリーを取扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



- (3) バッテリー液（電解水）は希硫酸で劇物です。体や衣服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



保証とサービス

■新車の保証

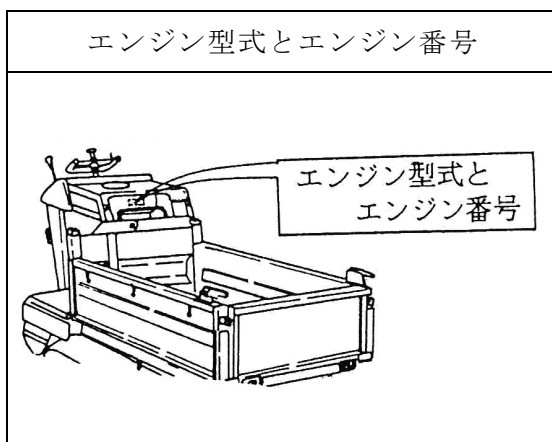
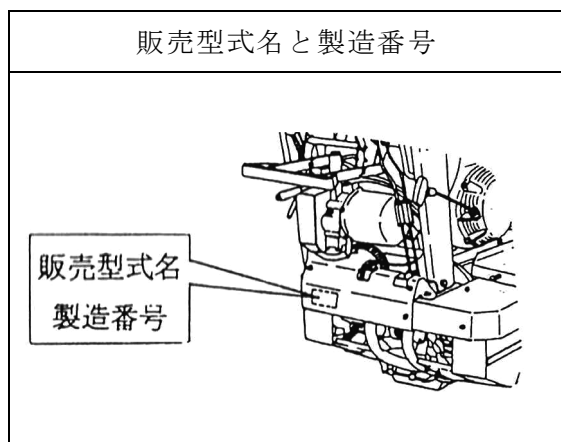
この製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店・特約店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン番号を併せてご連絡ください。



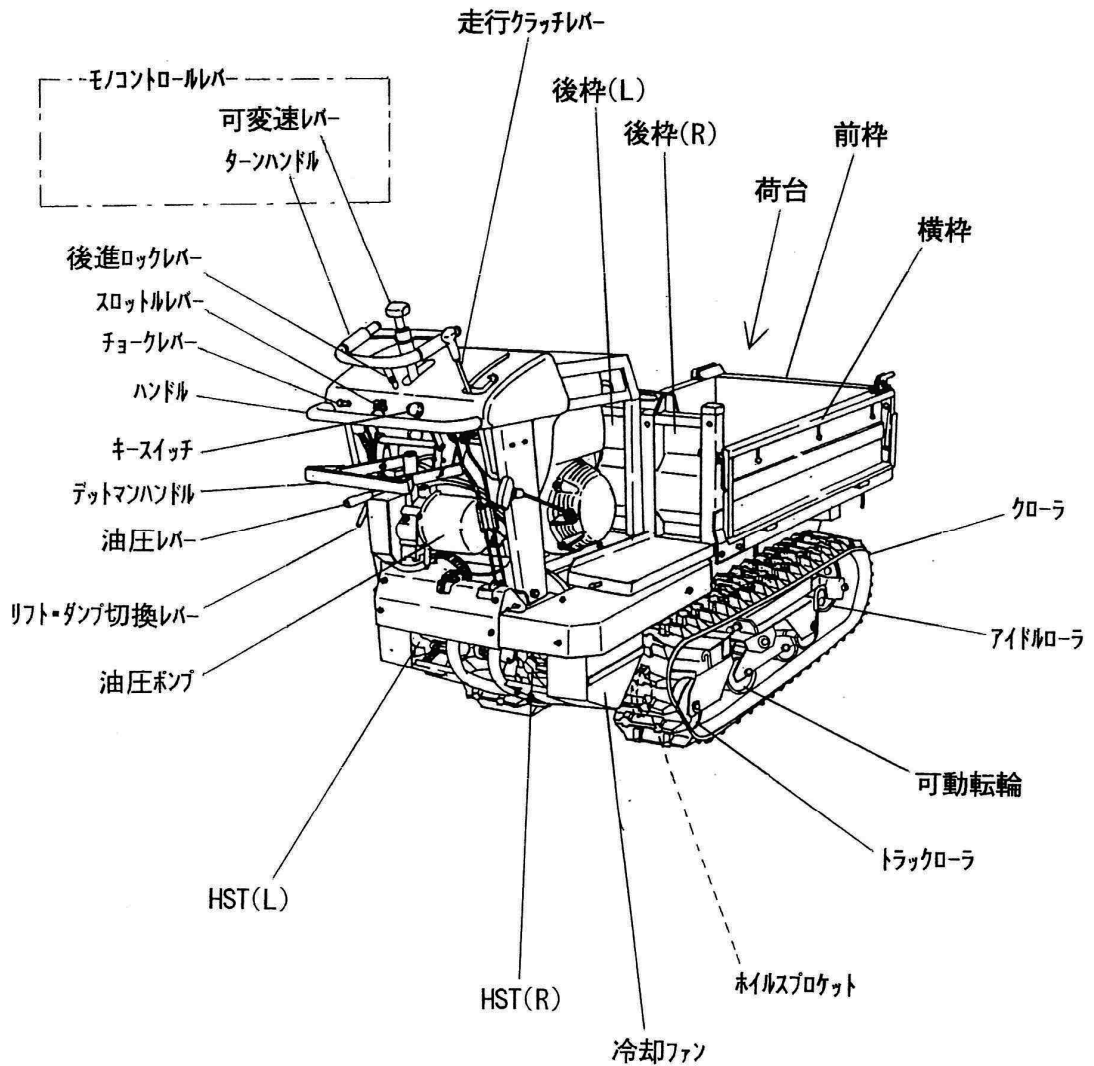
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

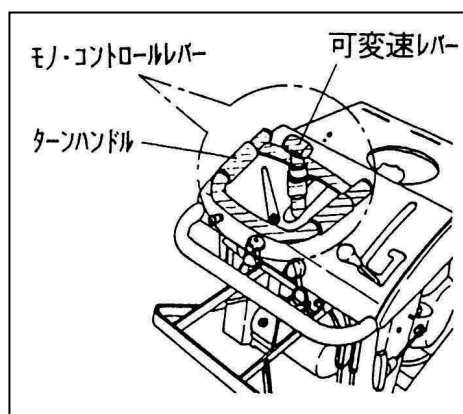
各部の名称



操作レバーの名称とはたらき

■モノ・コントロールレバー

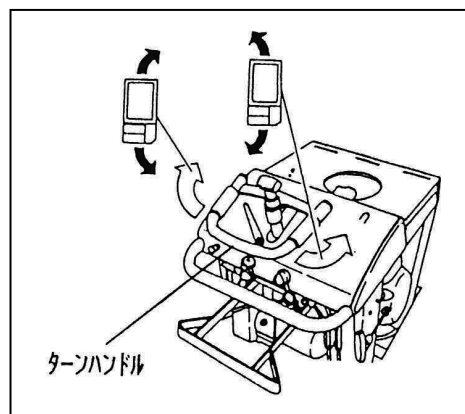
可変速レバーとターンハンドルから構成されており、前・後進の切換えと変速、および旋回操作がこの1本のレバーでできます。



ターンハンドル

本機は、2ポンプ2モータHST（油圧無段変速装置）を使用しています。

ターンハンドルを左右に回すことで、旋回ができます。

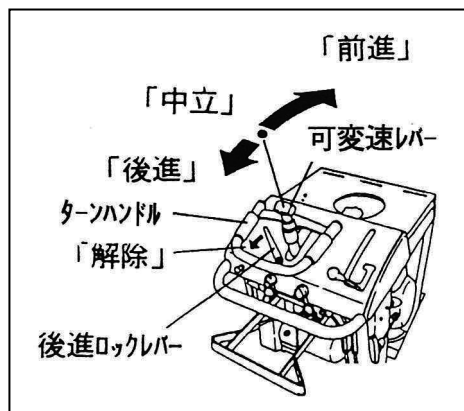


重要

- ツインターン（その場旋回）は、可変速レバーが「中立」の位置でしかできません。
- 前進高速走行時にターンハンドルを回すと、自動的に減速走行になります。

可変速レバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。エンジンの回転が最高なときに最大のパワーを発生しますので、積載量・負荷が大きい時には、エンジン回転数を最大に上げてください。

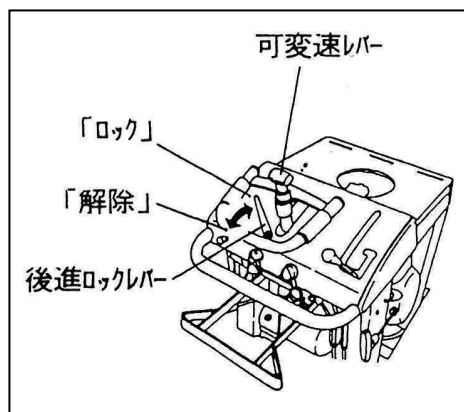


重要

- 誤操作等による危険を避けるため、可変速レバーは急に後進側へ入らないよう後進ロック機構が設けられています。後進時は、後進ロックレバーの解除を行ってから可変速レバーを倒してください。

■ 後進ロックレバー

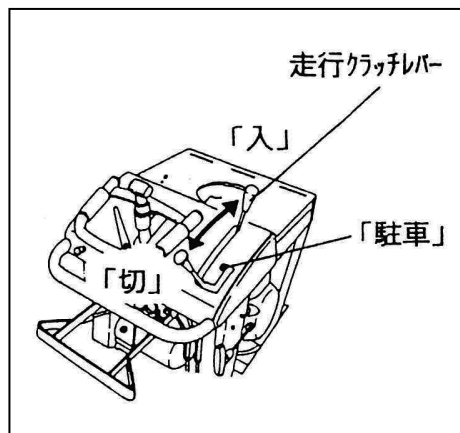
可変速レバーが急に後進側へ入らないようにするためのロックレバーです。



■ 走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「入」位置に入れるとエンジンの駆動力がHST（油圧無段変速装置）に伝達されます。

走行クラッチレバーを「駐車」位置にセットすると、駐車ブレーキがかかります。



重要

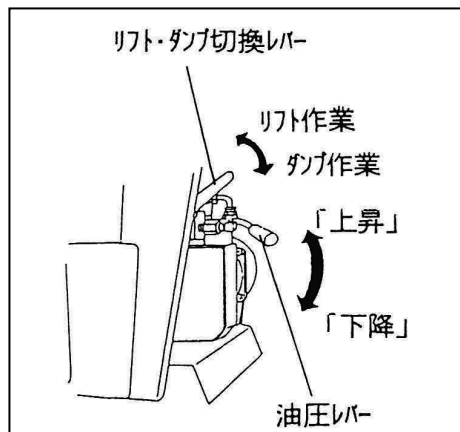
- 走行クラッチレバーを「入」→「切」に操作するとモノ・コントロールレバーが自動的にもどります。

走行クラッチレバーが「切」位置の状態では、可変速レバーを操作することができません。

■ 油圧レバー

エンジンをかけた状態で、油圧レバーを操作することで、荷台のリフト作業およびダンプ作業が行えます。

状態	油圧レバー	荷台
リフト時	上げる	上昇する
	下げる	下降する
ダンプ時	上げる	ダンプ(上昇)する
	下げる	ダンプ(下降)する



重要

- 荷台を上昇させる方向に油圧レバーを操作しても、リリーフ弁が作動（ビーという音がでます）して、荷台が上昇しない場合は、積み過ぎですから、積荷を減らしてください。また、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。
- 走行中の操作は行わないでください。
- 周囲の安全を確認して操作してください。
- 足場の悪い所や、傾斜地での操作は避けてください。

⚠️危険

- 荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。手や足をいれないでください。
- 点検・整備などを行うときは、必ず落下防止を施してください。
- 荷台のリフトおよびダンプ操作をする場合は、駐車ブレーキをかけて操作してください。

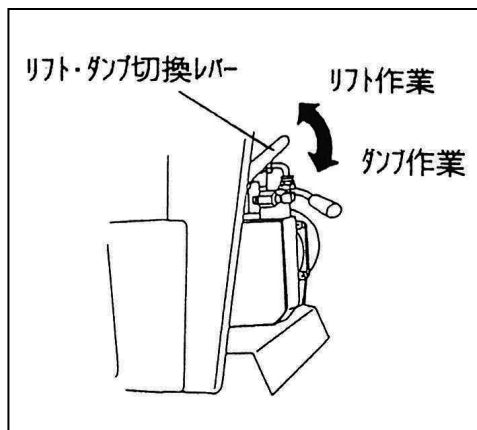
⚠️注意

- リフトおよびダンプ操作をする場合は、上昇・下降いずれの場合にも必ずエンジンをかけた状態で行ってください。
エンジンをかけないで荷台を下降させると、油圧シリンダ内が真空となり、スムーズなリフト・ダンプ操作ができなくなります。

■リフト・ダンプ切換レバー

荷台のリフト作業およびダンプ作業の切換えを行うレバーです。

切換レバーを上げるとリフト作業、下げるとダンプ作業が可能になります。



重要

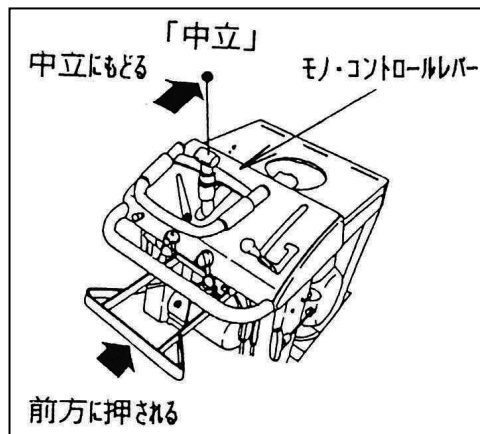
- 切換レバーは、荷台のリフト途中やダンプ途中いずれの場合でも操作ができます。

⚠️注意

- リフト・ダンプ切換レバーは、油圧レバーが中立位置以外では操作しないでください。切換部破損の原因となります。

■デットマンハンドル

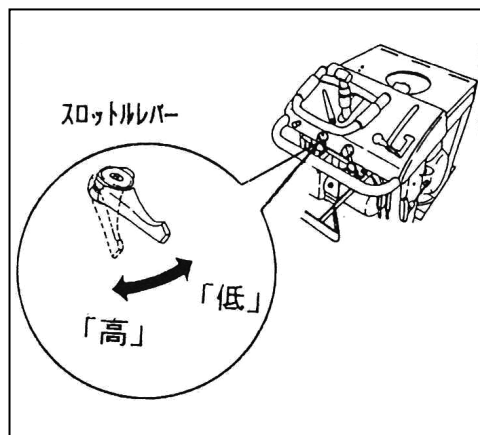
狭圧防止のハンドルです。後進走行時にデットマンハンドルが前方に押されると、モノ・コントロールレバーが「中立」位置（付近）にもどります。



■スロットルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

エンジン回転が最高のときに最大のトルクを発生しますので、積載量・負荷が大きい時にはエンジン回転数を最大に上げてください。



作業前の準備

使用前の点検について

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

- (1) 前日、異常のあった箇所
- (2) 車両を確認して
 - エンジンオイルの量、および汚れ…………… 40 ページ
 - 燃料フィルタの水、沈殿物の点検…………… 40 ページ
 - ギヤボックスオイルの量、および汚れ …… 37 ページ
 - Vベルトの張り具合、損傷…………… 46・47 ページ
 - HST オイルの量、および汚れ…………… 33・34 ページ
 - エンジンエアクリーナの清掃……………エンジン取扱説明書
 - 燃料は十分か、燃料キャップの締め付け …… 40 ページ
 - デットマンハンドルの作動…………… 24 ページ
 - 油圧ポンプのオイル量、および汚れ…………… 38 ページ
 - 油圧系統の油漏れ…………… 36 ページ
 - 車体各部の損傷、およびボルト・ナットの緩み
 - 駐車ブレーキの作動…………… 43 ページ
- (3) エンジンを始動して
 - スロットルレバーの作動
 - 排気ガスの色、異常音
- (4) 徐行しながら
 - 可変速レバーの作動…………… 21・42 ページ
 - ターンハンドルの作動…………… 20 ページ
 - 走行部の異常音

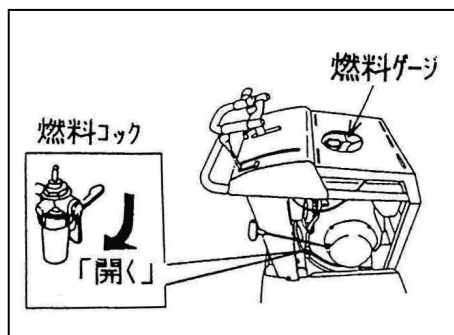
作業のしかた

運転操作の要領

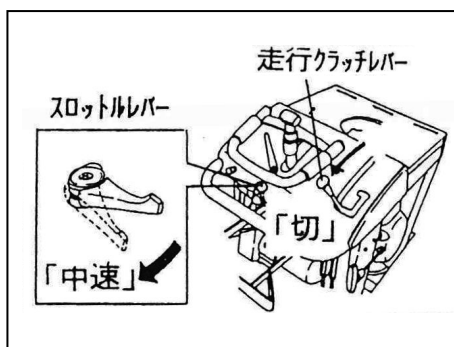
■エンジンの始動

警告 ●急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーの位置を「切」にし、周囲の安全を確認してから行ってください。

(1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。



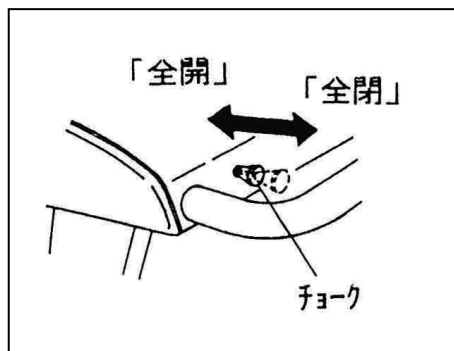
(2) 走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認し、スロットルレバーを中速程度まで上げます。



(3) チョーク操作を行います。

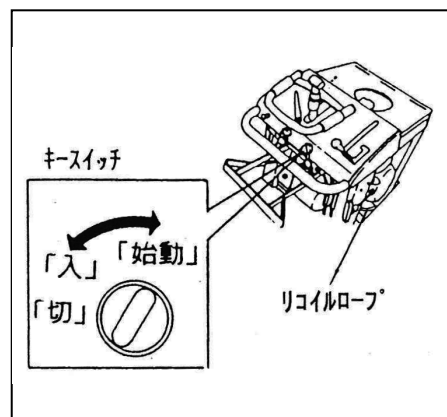
- 冷機時はいっばいに操作（全開）します。
- 暖機時は半分程操作します。（または、操作なし）

※ エンジン始動後、チョークは元の位置にもどしてください。



(4) キースイッチを「始動」位置まで回しセル始動させてください。

※エンジン始動後は、速やかにキースイッチから手を離してください。



重要

- エンジンの暖機運転をしないで走行・作業をしますと、エンジンの寿命が短くなります。1~2分程度の暖機運転を行ってください。
- 暖機運転中は、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。

リコイルで始動する場合

バッテリー不足等でセルによるエンジンの始動が困難な場合には、キースイッチを「入」位置まで回し、リコイルロープをフックから外して一気に引きます。

重要

- リコイルスタータは、引ききらないように注意してください。また、ゆっくりと元にもだし、リコイルロープをフックに引っかけてください。

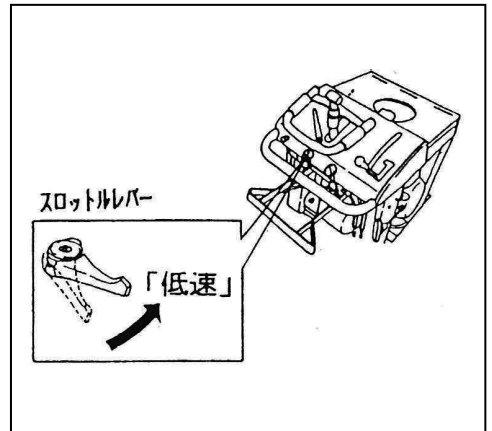
■エンジンの停止



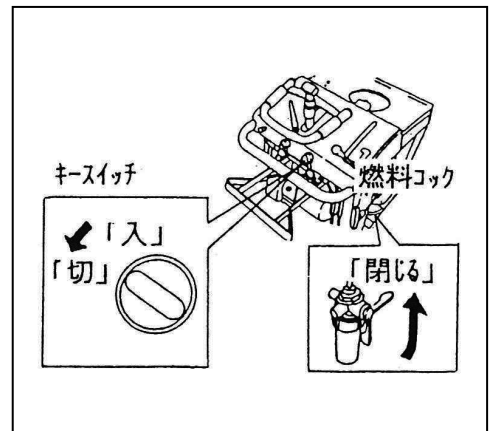
警告

●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

- (1) スロットルレバーをもどして、しばらく低速運転を行ってください。



- (2) キースイッチを「切」位置にもどしてエンジンを停止し、燃料コックを閉じてください。



重要

- エンジンを高回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後、すぐにエンジンを停止させるとアフターバーン（ボンという音）が発生する場合があります。アイドリング回転で5～10分程度の無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

■発進のしかた

- ⚠危険** ●転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
- 障害物にはさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。

- ⚠警告** ●運転中または、回転中に回転部（ベルト・プーリ）に触れるとケガをします。触れないでください。

- (1) 走行クラッチレバーを「入」位置に入れます。



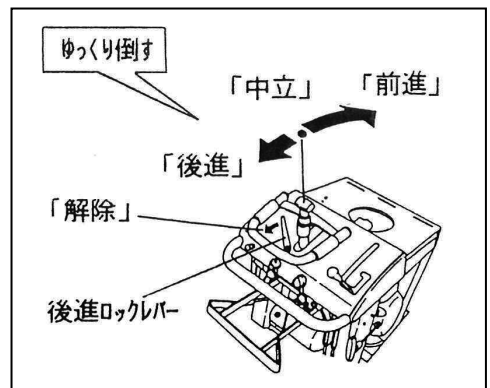
- (2) 可変速レバーをゆっくりと倒すと発進します。

● 前進

可変速レバーを「前進」方向にゆっくりと倒してください。

● 後進

後進ロックレバーを「解除」方向に操作し可変速レバーを「後進」方向にゆっくりと倒してください。



重要

- 可変速レバーの倒し角度によって走行速度が変わります。少し倒せばゆっくりと走行し、多く倒せば速く走行します。

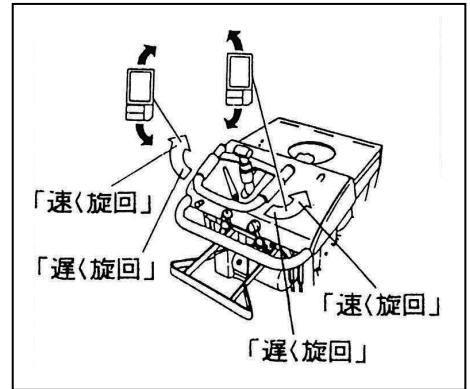
- ⚠注意** ●急発進し危険ですので、可変速レバーの急激な操作は避けてください。

■ 旋回のしかた

ターンハンドルを左右に回すことで旋回ができます。

重要

- ターンハンドルを少し回転させるとゆっくりと旋回し、多く回転させると速く旋回します。
- 可変速レバーが「中立」の位置でターンハンドルを回転させるとツイターン（その場旋回）します。



⚠ 危険

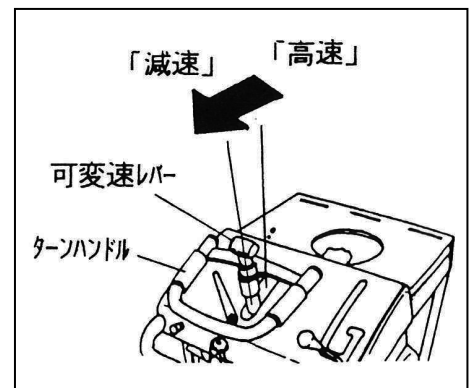
- ターンハンドルの急な回転操作は、機体が急旋回となり、特に急激なツイターン（その場旋回）は大変危険です。できるだけ緩やかな回転操作を心がけてください。
- ターンハンドルのみで前・後進の変速操作を行うと、誤操作の恐れがあり大変危険です。前・後進の変速操作は必ず可変速レバーを握って行ってください。

⚠ 注意

- ターンハンドルを回しても旋回できないような大きな負荷運転時は、HST（油圧無段変速装置）に無理がかかり、故障の原因となりますので、無理な旋回操作は避けてください。

重要

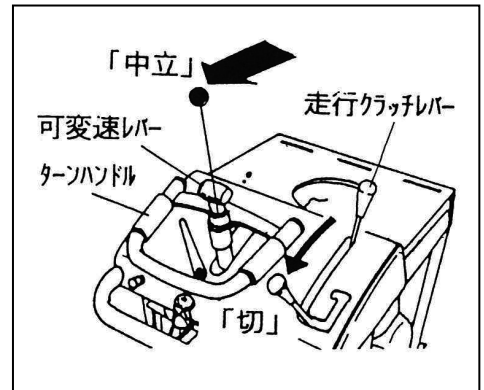
- 前進高速走行時にターンハンドルを回し旋回を行おうとすると、可変速レバーが自動的に減速方向へ動き、安全な旋回ができます。



■ 停車・駐車

可変速レバーを「中立」の位置にもどせば、ほぼ停止します。(ターンハンドルも中立状態)

確実に停車するために走行クラッチレバーも「切」位置にしてください。

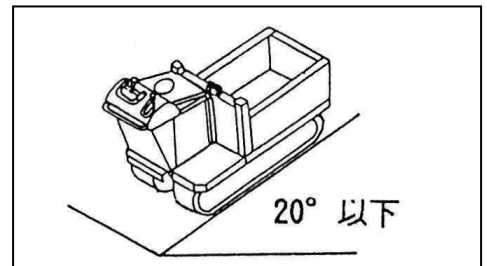


⚠ 危険

- 緊急の場合には、走行クラッチレバーを「切」にすることにより停止することができます。この操作により、可変速レバーは自動的に「中立」位置にもどります。
- 停車を場合は、走行クラッチレバーを必ず「切」位置にしてください。
- 駐車・および運転者が機体から離れる場合には、走行クラッチレバーを必ず「駐車」位置にセットしてください。

■ 坂道での運転

(1) 本機は20°以下の坂道で走行してください。

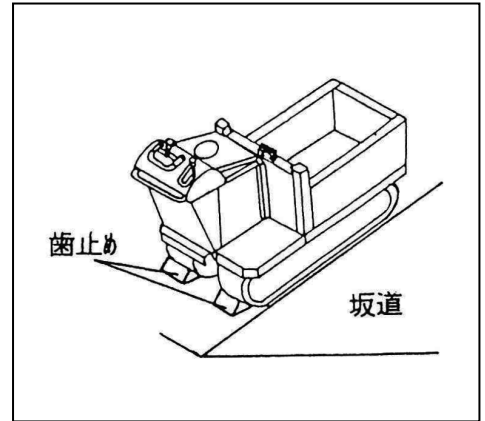


(2) 坂道では、必ず微速、もしくは低速で走行し、Uターンは避けてください。



(3) 下り坂での急ブレーキは、できるだけ避けてください。

(4) 坂道で駐車する場合は、必ず歯止めをしてください。



重要

- 転倒の恐れがありますので、特に坂道では急な旋回をしないでください。
- 下り坂で停止する場合は、可変速レバーを緩やかに「中立」位置にもどし機体を停止させてから走行クラッチレバーを「切」位置にし、次に「駐車」位置にセットしてください。
- 坂道でエンジンが停止しそうになった場合は、可変速レバーの倒し角を少なくして走行スピードを遅くし、エンジンの回転が高くなるのを待ってから徐々にスピードを上げてください。

危険

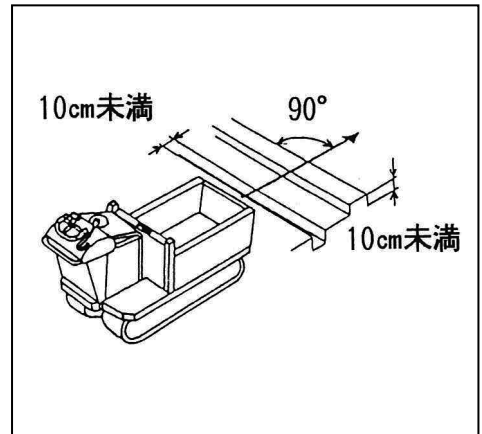
- 下り方向に走行中は、急停止をしないでください。機体やギヤボックスに負担がかかり、機体の寿命に影響するばかりでなく、転倒の恐れがあります。
- 坂道走行中にエンジンが停止した場合には、走行クラッチレバーを素早く「駐車」位置にセットしてください。
- 坂道でエンジン停止中に、走行クラッチレバーを「入」位置にし可変速レバーを操作すると、ブレーキが解除されて大変危険です。

注意

- 下り坂での旋回は、平地よりも旋回半径が大きくなりますので、注意してください。

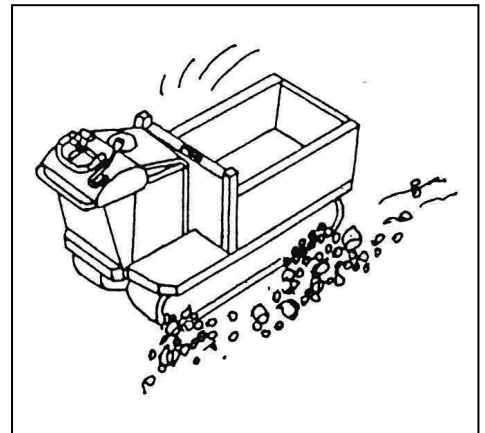
■ その他走行時の注意

- (1) 凹凸はできるだけ避けて、機体にショックがかからないようにしてください。もし凹凸越えをする場合は、必ず低速にし真っ直ぐに乗り越えてください。



⚠️ 注意 ● HST（油圧無段変速装置）への過負荷時にはHSTより「ビー」という音がでます。故障ではありませんがHSTの寿命に影響することがありますので、連続で音がでないように注意して運転をしてください。

- (2) 小石がたくさんある場所で、ツインターン（その場旋回）のような小回り旋回をすると、スプロケットとクローラの上に石が入り、走行装置を損傷することがありますので注意してください。



重要 ● 小石がたくさんある場所では、急旋回は避け、直進や小さい角度の方向転換の運転をするように注意してください。

積載要領

■最大作業能力

警告 ● 転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでください。

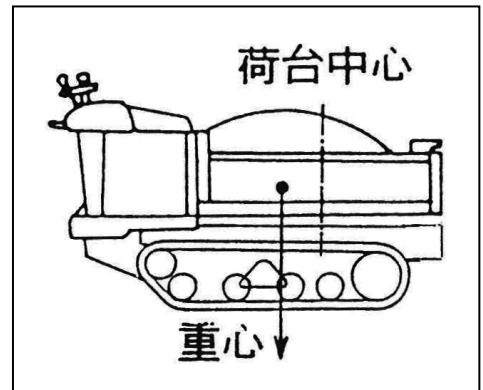
作業能力は下表の通りです。

勾配	最大作業能力 (kg)
平地	800
20°以下の登降坂	400
15°以下の登降坂	500

■バランス

安全に効率よく作業するために、バランスよく積載してください。積荷の重心が荷台中心部よりややエンジン側にあるときが最も安定します。

重要 ● やむおえず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないように、ぬっくりと低速で運搬してください。



危険 ● 積荷の重心が荷台前方に片寄ると、転倒する恐れがあります。重心が前方になる場合は低速でゆっくりと走行し、十分に注意をはらって運搬してください。

警告 ● 荷動きしないようにしっかりとロープ等で固定してください。荷動きすると、積荷の落下や機体転倒の恐れがあり大変危険です。

■リフト・ダンプ操作

リフト・ダンプ操作につきましては、21, 22 ページの「油圧レバー」および「リフト・ダンプ切換レバー」の項目をご参照ください。

点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。



警告

●給油および点検をするときは安全を確認して行ってください。

- ①車両を平坦な広い場所に置く。
- ②エンジンを停止する。
- ③駐車ブレーキをかける。
- ④荷台の下部の点検・整備の際は、十分強度のある木材などで下降防止をする。

※ 安全を確認せずに点検整備すると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

<定期点検整備箇所一覧表>

本機を安全に使用するためにまた、事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。

○点検・調整 ◎補給 ●交換

点 検 箇 所	項 目	点 検 時 期 (目 安)					参 照 ページ	
		始業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎	300h 毎		
本 体 ・ 走 行 部	ギヤーボックス	油 量	○	◎		●		36
	V ベ ル ト	伸 び・亀 裂	○					45・46
	各 部 ワ イ ヤ ー	伸 び	○					—
	ク ロ ー ラ	伸 び・亀 裂	○					46
	転 輪 (各 ローラ)	グ リ ー ス	○					36
	各 支 点 部	ギヤーオイル			◎			—
	操 作 系 ロ ッ ド 支 点 部	ギヤーオイル	○					—

作業のしかた

○点検・調整 ◎補給 ●交換

点 検 箇 所		項 目	点 検 時 期 (目 安)					参 照 ペ ージ
			始業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎	300h 毎	
油 圧 部	H S T オ イ ル	油 質					●	37・38
	H S T ホ ー ス	亀 裂	○					—
	油 圧 ポ ン プ	油 量 ・ 油 質			◎	●		37
	油 圧 ホ ー ス	亀 裂	○					—
	油 圧 シ リ ン ダ	油 漏 れ	○					—
	摺 動 部	グ リ ー ス	○					—
エンジン関係については「エンジン取扱説明書」をご参照ください。								

重要

●年に1回はお求めの販売店にて点検整備を受けてください。

■給油

<給油箇所一覧表>

給 油 箇 所		油 の 種 類	給 油 量	参 照 ペ ージ
本 体 ・ 走 行 部	ギヤボックス	※ギヤオイル90# (寒冷地80#)	2.7ℓ	36
	トラックローラ	エトライト NO.1 相当品	適 量	36
	アイドルローラ			
	注油指示部 (黄色マーカー部・摺動部)	エクセライト NO.2	適 量	
油 圧 部	油圧ポンプ・HST	ディーゼルエンジンオイル [テールスター F10W-30]	2.4ℓ	37・38
	各支点・摺動部	エクセライト NO.2	適 量	—
エンジンオイルや燃料等につきましては、「エンジン取扱説明書」をご参照ください。				

重要

- 機械にとって潤滑油は人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに給油または交換をしてください。
- 表内※印部の油の種類は、寒冷地（使用時気温-10℃以下）においては、（ ）内のものを使用してください。
- 給油作業は、ゴミ・水等が入らないように十分注意して行ってください。

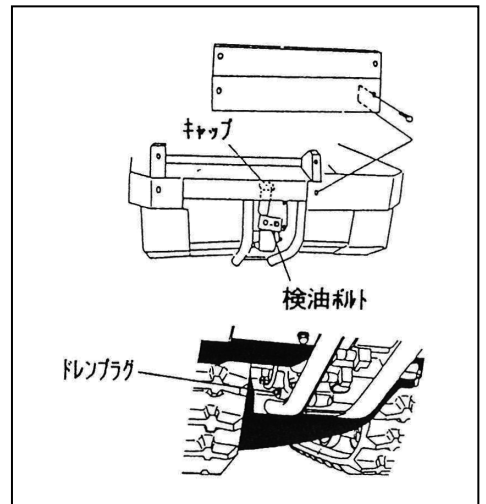
1. ギヤーボックスの給油・交換

●給油

給油口のキャップを外して、給油口の下側側面にある検油ボルトを外し、ボルト穴からオイルが流れ出すまで給油してください。

●交換

ギヤーボックス下部のドレンプラグを外して廃油を排出した後、ドレンプラグを元のように締め込み、上記給油の要領で給油してください。



2. 走行装置へのグリスアップ

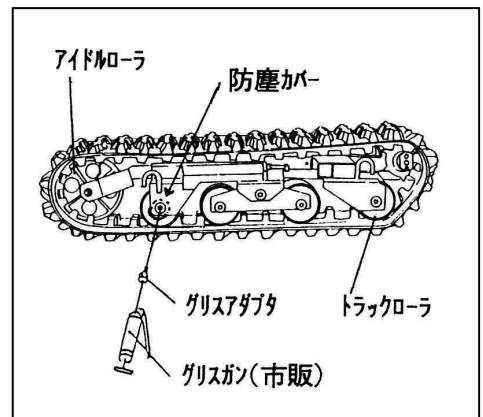
100時間運転毎に必ず補給してください。特にぬかるみで使用した場合は、きれいに洗浄した後、必ず補給してください。

① アイドルローラ

防塵カバー裏面からグリスが出てくるまで市販のグリスガンにて補給してください。

② トラックローラ

締付けボルトを取り外し、付属品のグリスアダプタを組み付けて、軸のシールリップからグリスが出てくるまで補給してください。

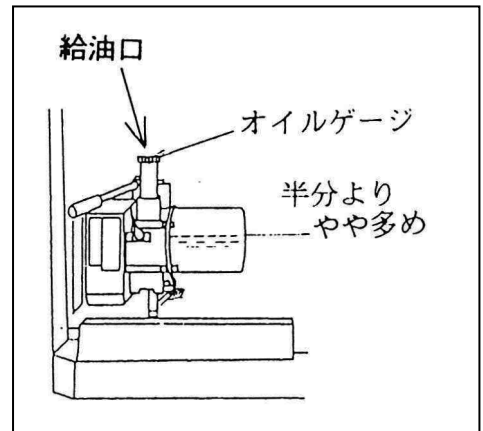


3. 油圧ポンプの給油・交換

100時間運転毎を目安に補給し、200時間運転毎に交換を行ってください。

●給油

荷台を降ろした状態で作動油が油圧タンクの半分よりやや多めになるよう給油口より給油してください。（オイルゲージの先端がオイルにつかる程度まで補給）

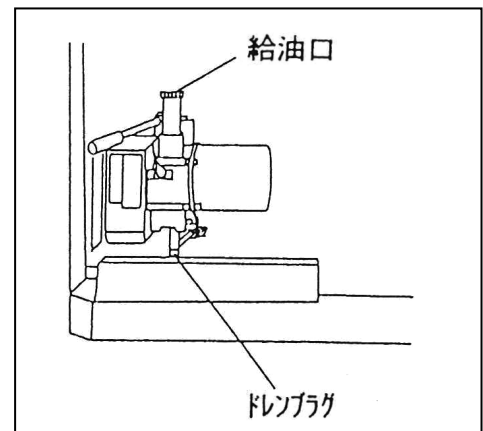


重要

●油圧ポンプは、HST（油圧無段変速装置）のポンプとつながっており、HSTポンプ内は常に作動油で満たされています。油圧ポンプの油量減少が多い場合は、荷台をリフト・ダンプさせる油圧系統ばかりでなく、HST系統の油漏れも考えられます。

●交換

- (1) 油圧ポンプ下部のドレンプラグを外して作動油を排出した後、ドレンプラグを元のように締め込みます。
- (2) 荷台を降ろした状態で作動油が油圧タンクの半分よりやや多めになるよう給油口より給油してください。（オイルゲージの先端がオイルにつかる程度まで補給）



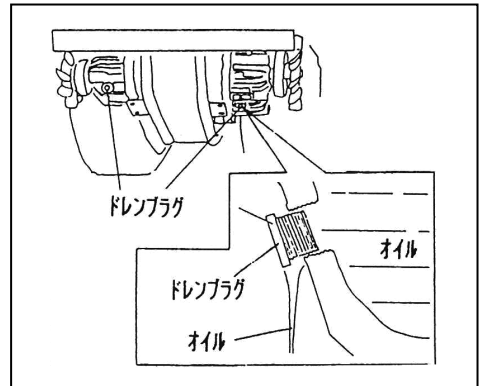
3. 油圧ポンプの給油・交換

油圧ポンプとHSTポンプはつながっていますが、通常の使用においては、HSTのポンプ側の作動油が油圧ポンプ側の作動油よりも汚れています。下記要領に従い、500時間運転毎にHSTオイル交換を行ってください。

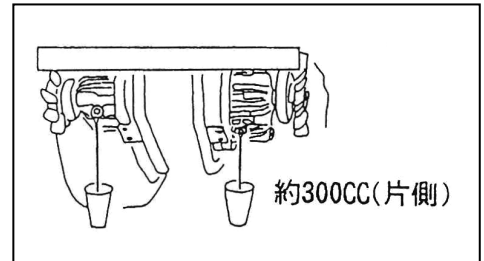
交換は、お買い上げいただきました販売店にご依頼されることをお勧めします。

- (1) HSTのドレンプラグを完全に抜かないように注意しながら緩め、作動油を少しずつ排出してください。

※ドレンプラグを完全に抜いてしまうと、ドレン穴からHST内に空気が入り、HSTの性能が発揮できなくなる場合があります。



- (2) HSTの汚れた作動油が抜けると共に、油圧ポンプからの作動油が流れ込んでくると、ドレンプラグから抜いている作動油の色が、比較的きれいな色に変わります。(片側HSTで約300cc) これを目安にドレンプラグを元のように締め込んでください。



⚠️注意 ●HSTのドレンプラグから、油圧ポンプの作動油が無くなるまで、作動油を抜いてしまと、HST内に空気が入ることになり、HSTの性能が発揮できなくなる場合があります。

- (3) ドレンプラグを締めた後、抜いた作動油量分を油圧ポンプの給油口から給油してください。(37 ページ参照)

重要

●廃油は廃油受け皿等に取り、垂れ流したりしないでください。公害のもととなります。

■点検と清掃

危険

●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止してください。

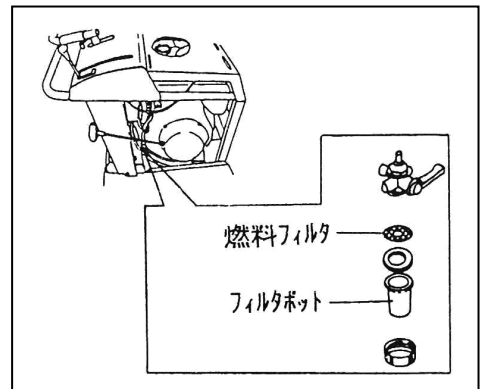
- 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。引火爆発・火災の原因になります。

燃料・・・自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 燃料キャップが閉まっているか確認してください。

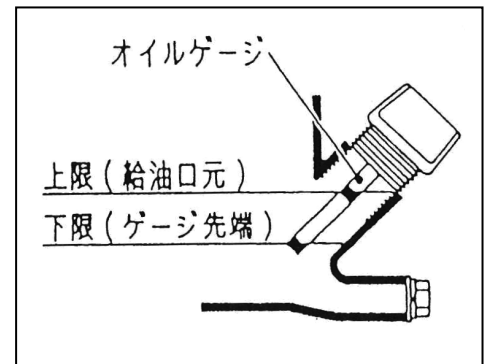
燃料フィルタの点検と清掃

- 燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿しているか点検します。
- 水・ゴミ等がたまっている場合は、フィルタポットを外し、内部をガソリンで洗浄してください。



エンジンオイル

- 機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- 「下限」以下の場合は、口元まで補給してください。



重要

- エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

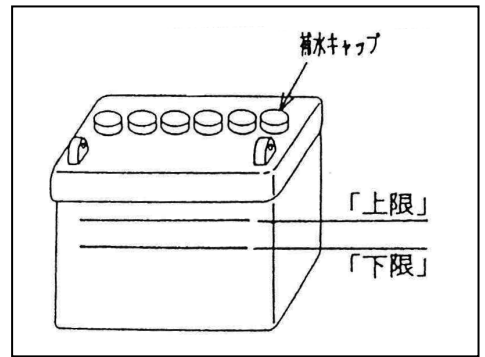
※オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

■バッテリーの点検と取扱い

警告 ●バッテリーの取扱いを誤ると引火爆発することがあります。ショートやスパークさせたり、火気を近づけたりしないでください。また、バッテリー液で失明や火傷をすることがあります。目・皮膚・衣服についたときは、直ぐに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗い後、医師の治療を受けてください。

(1) バッテリーの液量点検

- バッテリー液がバッテリー液面レベルの上限から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
- 不足している場合は、キャップを外し、蒸留水を補充してください。



重要 ●バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命が短くなり、多過ぎると液がこぼれて車体を腐食させます。

(2) バッテリーの取扱い

- バッテリーは使用しなくても自己放電します。定期的に補充電を行ってください。
夏季 ----- 1ヵ月毎 冬季 ----- 2ヵ月毎
- 本機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

重要 ●バッテリーは必ず、車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

- バッテリーコード（端子）を取り外すときは、 \ominus コードを先に外します。
- バッテリーコード（端子）を取り付けるときは、 \oplus コードを先に取り付けます。これを怠ると、ショートして火花が飛んだりして危険です。

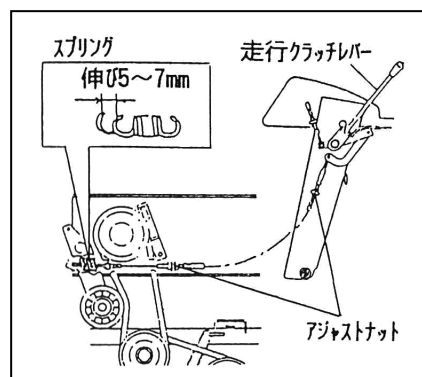
各部の調整および交換

警告 ●各部の点検、調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業してください。

■走行クラッチの調整

走行クラッチを「入」にしてもベルトがスリップして動力の伝動が不十分なときは、アジャストナットにて調整してください。

調整の目安は、走行クラッチレバーを「入」位置にした状態でスプリングの伸び量が5～7mmです。



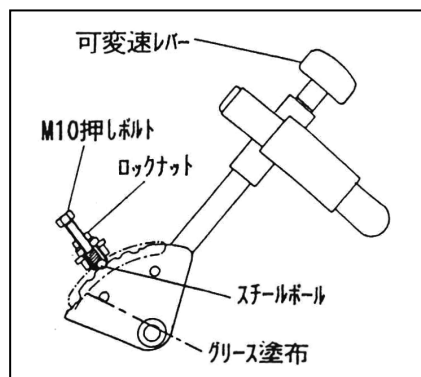
重要

●走行クラッチの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバーを「入」にしてもベルトがスリップして動力の伝動が悪くなり、走行できなくなったり、坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必ずベルトをチェックしてください。

■可変速レバーのかたさ調整

可変速レバーの操作荷重（かたさ）はM10押しボルトの押し量で決まります。ロックナットを緩め、押しボルトの押し量を調整してください。

押しボルトを締め込むと可変速レバーの操作荷重は重く（かたく）なり、緩めると軽くなります。

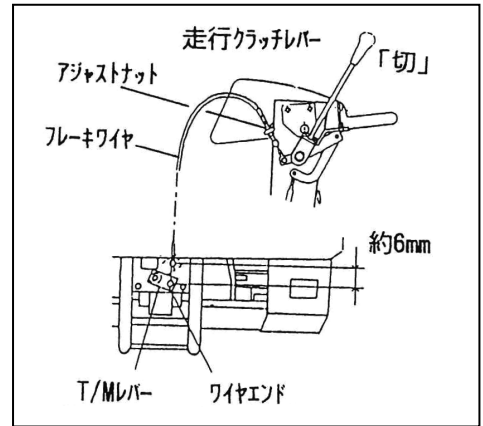


■ 駐車ブレーキワイヤの調整

走行クラッチレバーを「駐車」位置にセットすることでT/Mレバーがブレーキワイヤによって引かれて回転し、T/M内のギアが噛み合っ
てメカロックします。

走行クラッチレバーが「切」位置の状態
でブレーキワイヤに緩みがないようアジャストナ
ットで調整してください。

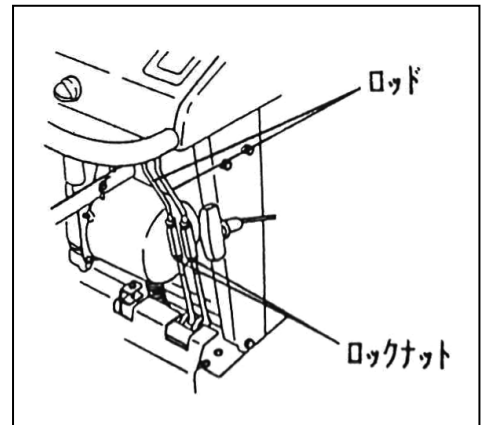
走行クラッチレバーを「切」→「駐車」位
置へ操作すると、T/Mレバーの回転量はブレ
ーキワイヤエンドで上下方向に約6mmとなっ
ています。



注意 ●ブレーキワイヤの調整が不十分な場合、駐車ブレーキが働かず大変危険です。始業前には必ず点検してください。

■ モノ・コントロールレバー「中立」時のクローラ停止調整

走行クラッチレバーを「入」にして、可変速レバー、およびターンハンドルを「中立」とした時に、クローラが停止しない場合（平地）はアジャスタのロックナットを緩めロッド長さを調整してください。



重要

●坂道で、モノ・コントロールレバーを「中立」にしても機体が動くことがあります。停止させる場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、さらに「駐車」位置にセットしてください。

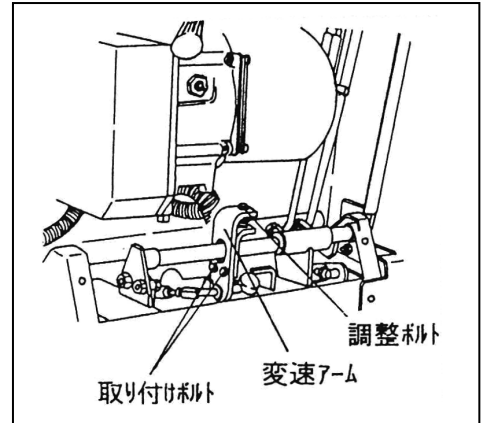
■モノ・コントロールレバー「前進」時の直進性調整

モノ・コントロールレバーの「中立」時の調整を（42ページ参照）を行ってから下記要領に従い調整を行ってください。

- (1) 変速アームの取り付けボルト（M6）2個を緩め、調整ボルトにて調整を行ってください。

調整ボルトを押し込む（右回し）と左側クローラ速度が速くなり、緩める（左回し）と左側クローラ速度が遅くなります。

- (2) 取り付けボルトを元のように締め付けてください。



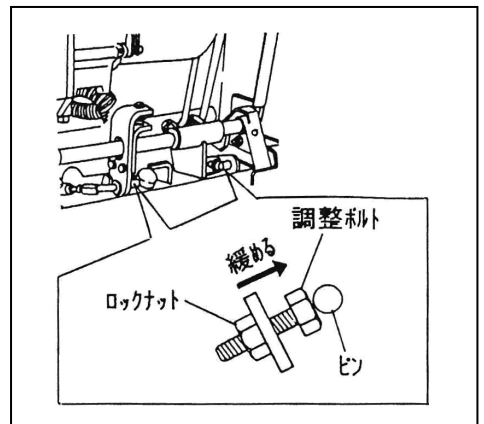
重要

- 前進時は、右側クローラの速度を基準に左側クローラの変えて、直進性の調整を行います。

■モノ・コントロールレバー「後進」時の直進性調整

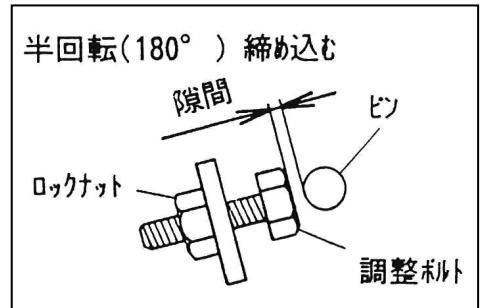
モノ・コントロールレバーの「中立」時の調整を（42ページ参照）を行ってから下記要領に従い調整を行ってください。

- (1) 「後進」時の直進性調整は、出荷時調整前の状態に一度もどさなければなりません。リヤカバーを外し、左右の調整ボルトのロックナットをそれぞれ緩め、調整ボルトがピンに当たるまで緩めてください。



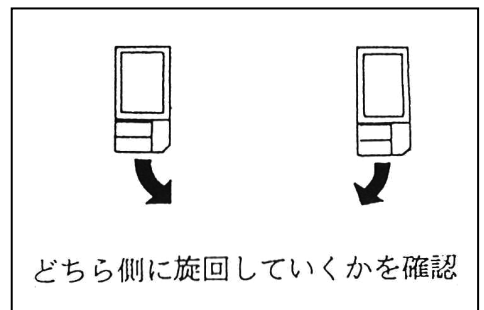
作業のしかた

- (2) 左右それぞれの調整ボルトを、ピンに当たる位置から半回転（180°）締め込んで（右回し）してください。



- (3) ゆっくりと後進走行をして、どちら側に機体が旋回していくかを確認してください。

- (4) 左右どちら方向に旋回しているかの状態によって、下表に従って調整を行ってください。

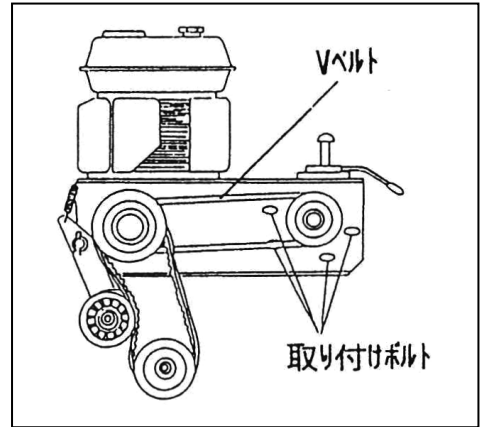


<p>左に向かって曲がる</p>	<p>左側の調整ボルトを締め込んで(右回し)調整してください。</p>	
<p>右に向かって曲がる</p>	<p>右側の調整ボルトを締め込んで(右回し)調整してください。</p>	

- (5) 左右調整ボルトのロックナットを締め込み、リヤカバーを元のように取り付けてください。

■油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整

- (1) ベルトカバーを外し、油圧ポンプの取り付けボルトを緩めます。
- (2) ベルト中央部を約10kgで押したとき、たわみが10mmになるように油圧ポンプを引っ張りながら、取り付けボルトを締め付けてください。
- (3) 調整後は、元のようにベルトカバーを取り付けてください。



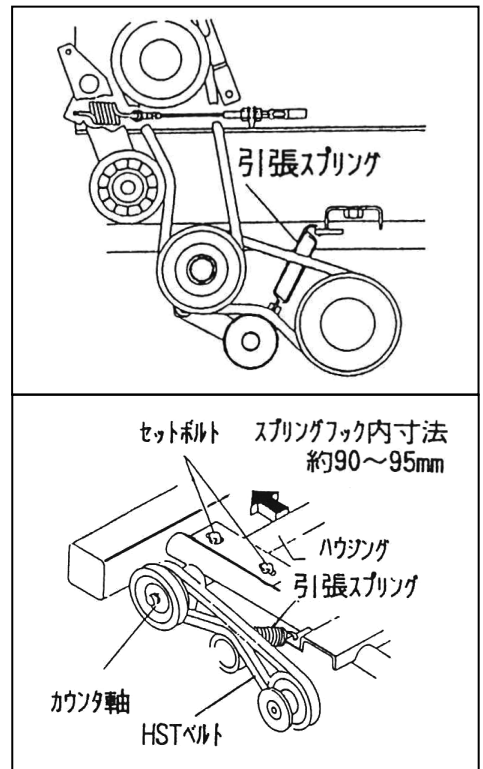
重要

- ベルトの張りが緩い場合には、油圧レバーを操作してもベルトがスリップして、荷台がリフトまたはダンプしない場合があります。必ず適正な張り調整を行ってください。

■HST用ベルトの張り調整

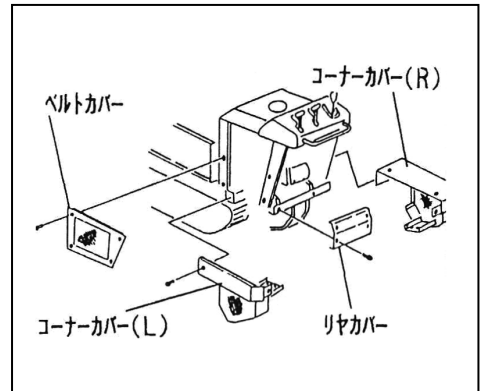
HSTベルトが緩んでいる場合は、張りスプリングの内寸法が約90mm以上となるように張ってください。

- (1) カウンタプーリ軸のハウジング用セットボルト（左右2本ずつ）を緩めてください。
- (2) カウンタ軸を機体前方に寄せて、スプリング長さの内寸法が90～95mmになるように調整してください。
- (3) 緩めたボルト4本を締め付けてください。

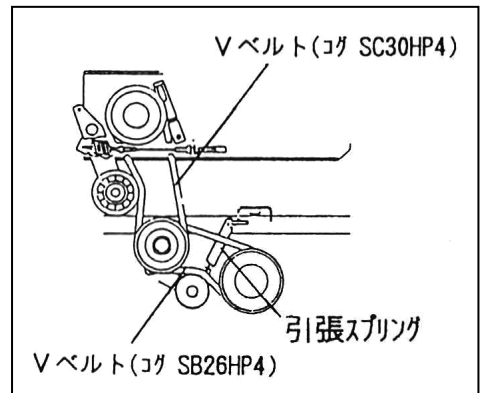


■ Vベルトの交換（走行用・HST用）

- (1) 荷台をリフトさせてください。
- (2) ベルトカバー・リヤカバー・コーナーカバー（L），（R）を取り外してください。



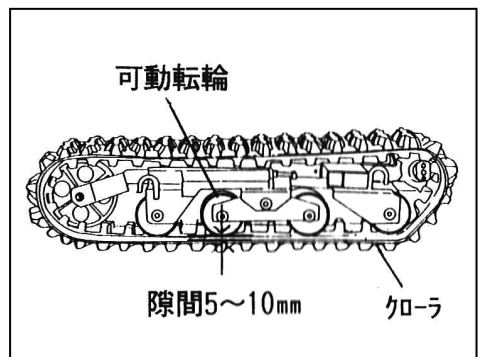
- (3) Vベルト；ローエッジコグSC-30を取り外してください。
- (4) 引張スプリング(左右)を外し、Vベルト；ローエッジコグSB-26を取り外してください。
- (5) Vベルト交換後は、逆の手順で組付けてください。



■ クローラの張り調整

クローラが初期伸びや摩耗のために緩んだ場合には、クローラの張り調整を行ってください。

クローラの張りは、クローラを地面から浮かした（車体を持ち上げた）状態で、可動転輪がトラックフレームに対し水平に位置しているとき、クローラと中央の可動転輪との隙間が5～10mmになるようテンションボルトで調整してください。

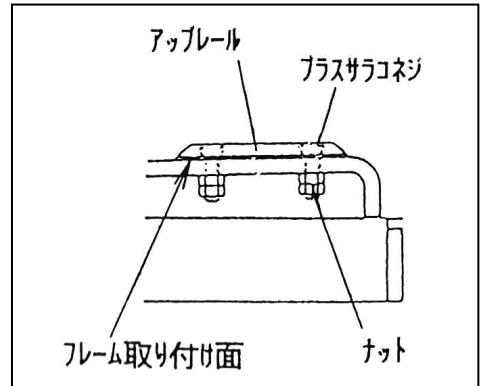


■アップレールの交換

アップレールはクローラとの接触により摩耗します。プラスサラコネジの頭部が見え始めたら早めに交換してください。

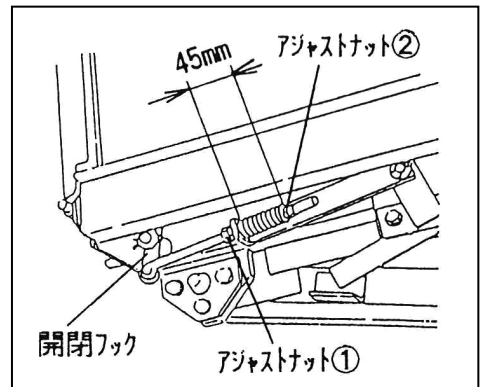
部品コード：0327-329-011-0

品名：アップレール



■前枠開閉フックの調整

- (1) 荷台を降ろした状態でアジャストナット①を緩めてください。
- (2) 開閉フックが前枠フックを確実に抑えるように、アジャストナット②を調整してください。
- (3) 荷台を完全にダンプさせ、スプリング長さが45mmになるようアジャストナット①を締め込んでください。



重要

●前枠開閉フックの調整が不十分ですと、ダンプをさせた時前枠が開かない場合があります。前枠が開かない場合は調整が必要です。また、カイヘイロックロッド、カイヘイカム等は無理な外力が加わると変形し、機能を果たさなくなる場合があります。十分に注意してください。

■エンジンの点検・整備

エンジンの点検・整備については、「エンジン取扱説明書」に従って、必ず行ってください。

手入れと格納



警告

- 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしてください。
- (3) 荷台は必ず降ろした状態にしてください。
- (4) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (5) 駐車ブレーキを必ずかけてください。
- (6) 厳寒時はバッテリーを外し、温かい室内等に保管すると始動時に効果があります。

重要

- 洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品および、マーク貼付部などには高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。
- 漏電の原因になるため、キースイッチのキーは抜いておいてください。

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。

手入れと格納

- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 各部のボルト、ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
- (6) 荷台は必ず降ろしてください。
- (7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (8) 走行クラッチレバーは「切」位置にし、駐車ブレーキはかけないで、クローラ歯止めをしておいてください。
- (9) エンジン部は、燃料タンク・キャブレター内のガソリンを完全に抜いて格納してください。
※「エンジン取扱説明書」参照
- (10) バッテリーは外して補充電を行い、液面を正しく調整して、日光のあたらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取り付けのまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）の配線を外しておいてください。

重要

- バッテリーを外さないときは、最低限バッテリーの ⊖ 端子を外してください。ショートして火災が発生することがあります。
- キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- 始業点検を確実に行ってください。
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で10分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■走行部

故障状況	原因	処置	参照ページ
走行クラッチを「入」にすると機体が少し動く	●可変速レバーおよびターンハンドルが「中立」でHSTの「中立」となっていない	●アジャスターによるロッド長さの調整	42
走行クラッチを「切」にしても停止しない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチの調整 ●ベルトストッパの調整	41 —
モノ・コントロールレバーを操作しても走行・旋回しない	●操作関係ロッドの外れ	●正規の位置に組み付ける	—
	●HST内にエア混入	●サービス工場エア抜き	—
	●Vベルトのスリップ	●Vベルトの張り調整または交換	45
モノ・コントロールレバーを操作すると「ビー」という音がでる	●HSTへの過負荷 (長時間続けるとHSTの寿命に影響することがあります)	●「ビー」という音が連続して発生しないよう注意して運転してください ①エンジン回転数を上げる ②可変速レバーやターンハンドルの操作角度を小さくする ③可変速レバーやターンハンドルの急な操作は避ける	29 32
	●HST内にゴミまたはエアが混入 (過積載時だけではなく常に「ビー」という音がでる)	●サービス工場清掃またはエア抜き	—
駐車ブレーキが効かない	●ブレーキワイヤの伸び	●ブレーキワイヤの調整	42

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
走行出力不足	●過積載	●積荷量を減らす	33
	●気化器の不良	●サービス工場での清掃・調整または交換	※
	●点火プラグの不良	●清掃または交換	※
	●エアクリーナの詰まり	●エレメント清掃または交換	※
	●燃料系統の汚損や詰まり	●清掃	39 ※
	●エンジンへの過負荷 (故障ではありません)	●モノ・コントロールバーの操作角度を小さくして運転する (大きな負荷がかかった場合、可変速レバーを倒し過ぎたり、ターンハンドルを大きく操作したりするとエンジンがトルク不足となります)	29 32
油圧レバーを操作しても、荷台が動かない	●過積載	●積荷量を減らす	33
	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●Vベルトの張り調整または交換	45
	●作動油不足	●作動油の補給	37
リフト・ダンプの出力不足	●シリンダ内にエアが混入	●サービス工場でのエア抜きを行う	—
	●作動油の不足または質の低下	●作動油の補給または交換	38
	●作動油の漏れ	●油圧ホースの増し締めまたは交換	30

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

不調時の対応のしかた

■セルモータ、バッテリー

故障状況	原因	処置	参照ページ
セルモータが回らない	●バッテリーの過放電	●充電または交換	40
	●ヒューズ切れ	●ヒューズ交換（10A）	58
	●キースイッチの不良	●キースイッチの交換	58
	●配線関係の不良	●修理または交換	58
モータは回るがエンジンが始動しない	●燃料コック開き忘れ	●燃料コックを開ける	25
	●燃料フィルタの詰まり	●フィルタの清掃	39
	●点火プラグの不良	●清掃または交換	※
	●気化器の不良	●サービス工場での清掃または交換	※
バッテリーが充電されない	●エンジンの発電不良	●サービス工場での清掃または交換	※
	●バッテリーの機能不良	●端子の緩み、腐食、電解液の不足等を修正 ●バッテリー交換	58

■エンジン部

回転が不規則	●燃料フィルタの詰まり	●フィルタの清掃	39
	●点火プラグの不良	●清掃または交換	※
作業中にエンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	40
	●エンジンの過熱	●小休止・冷却空気取り入れ口の清掃	※
	●点火プラグキャップの緩み・外れ	●正規に取り付け	※

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

作業を安全におこなうために

クローラ型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を記載しております。事故のない楽しい作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、機械を使用して行う作業に従事する者が作業の安全を確保するための注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得

機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業員及び他人に危害をおよぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- 精神病患者
 - 酒気をおびたもの
 - 若年者
 - 未熟練者
 - 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。
- 激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないように注意すること。

(4) 安全のための機械管理

① 日常の点検整備

機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

② 防護装置の点検

- 機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- 機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備、または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③ 掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合は、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④ 整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

① 引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等に当たってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

② 火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

① 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の障害およびスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土や石ころの飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあつては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあつては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い

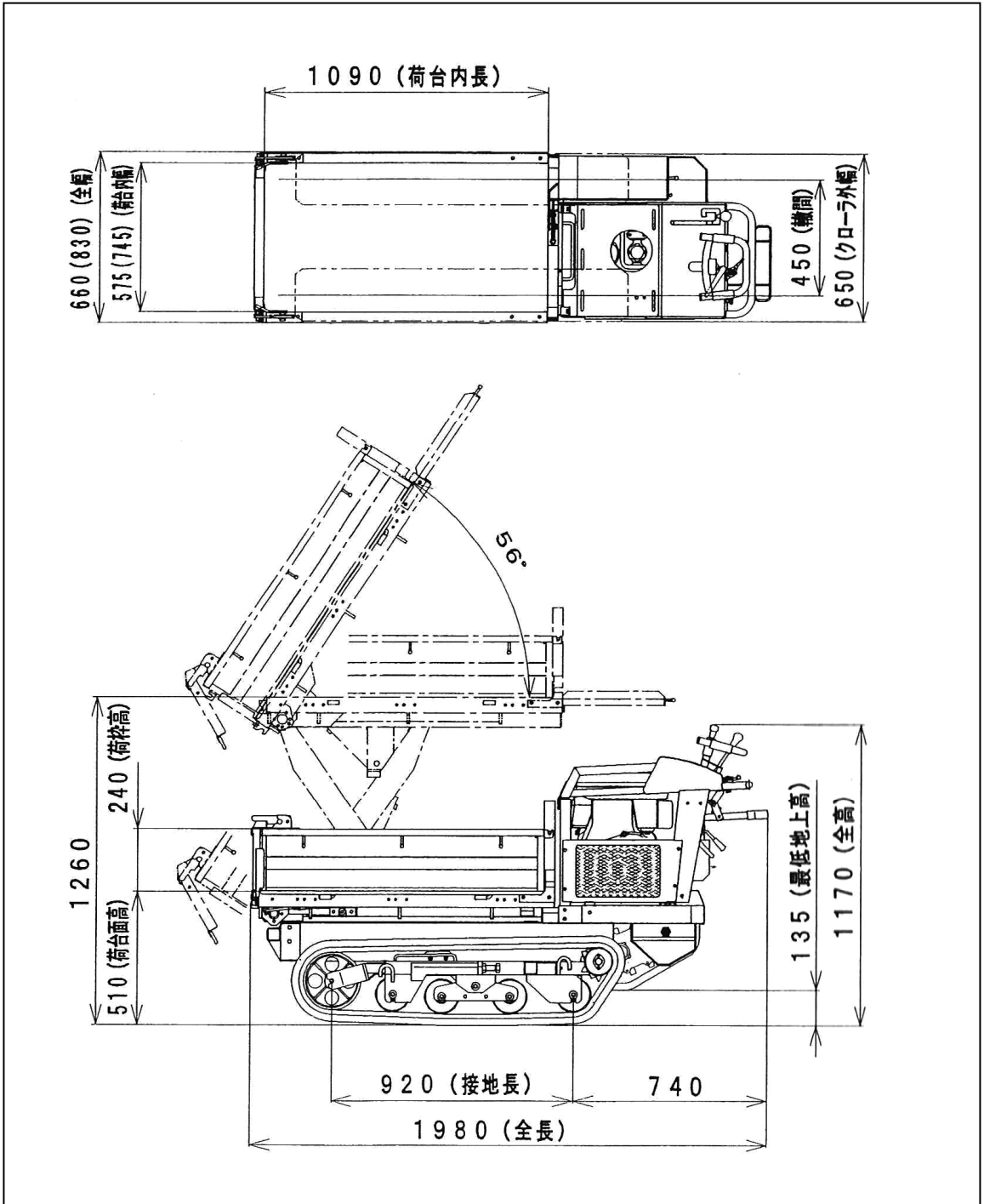
安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

サービス資料

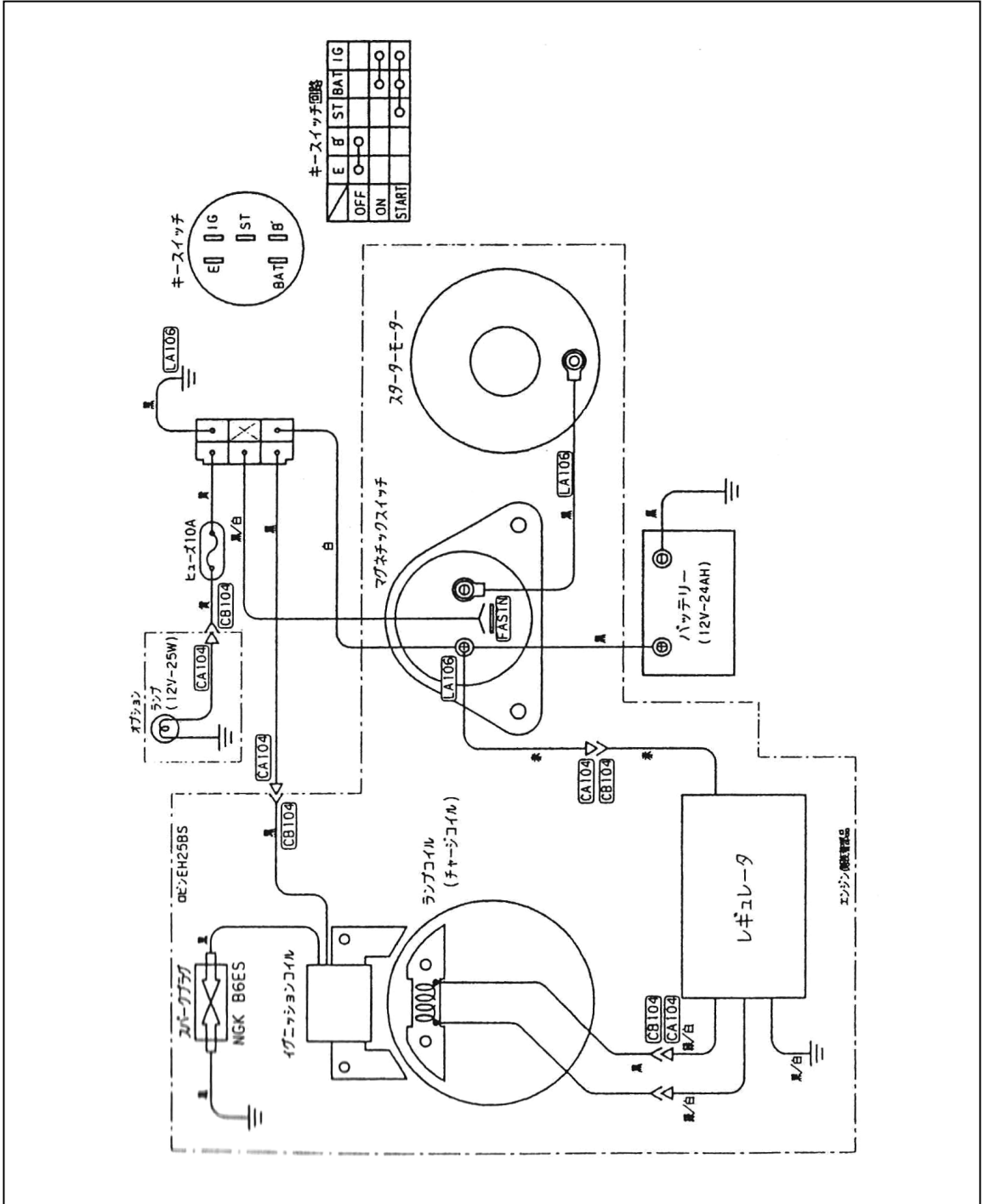
主要諸元

名 称		クローラ型運搬車
型 式		XS800LADBA
最大作業能力 (kg)		800
車 体	質 量 (kg)	515
	全 長 (mm)	1980
	全 幅 (mm)	660
	全 高 (mm)	1170
荷台内寸(長×幅×枠高) (mm)		1090×575×240
荷台面地上高 (mm)		510~1260
走 行 部	走 行 形 式	エンドレスゴムクローラ (後駆動)
	操 向 形 式	HST (2ポンプ・2モータ)
	ブ レ ー キ 形 式	HST油圧ブレーキ・メカ駐車ブレーキ
	ク ロ ー ラ サ イ ズ 幅 (mm)×リンクピッチ (mm)×リンク数	170×72×33
	轆 間 距 離 (mm)	450 (クローラ外幅650)
	接 地 長 (mm)	920
	変 速 段 数	無段変速
	走 行 速 度 (km/h)	前 進 0~3.2 後 進 0~1.2
最低地上高 (mm)		135
最小回転半径 (m)		1.0
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式	空冷4サイクル立型OHV式ガソリンエンジン ロビンEH30-DS
	定格(最大)出力(kw[ps]/min ⁻¹)	5.1[7.0]/3600 (6.7[9.0]/3600)
	最大トルク(N・m[kgf・m]/min ⁻¹)	19.1 [1.95] / 2500
	総 排 気 量 (cc)	291
	燃 料 (タンク容量) (ℓ)	自動車用無鉛ガソリン (約6.0)
	始 動 装 置	セルスタータ (リコイル付)
発 電 装 置		12V-33W (レギュレータ)
作 業	名 称	油圧リフト&ダンプ
	最大能力 (kg)	800
	装 置 仕 様	複動油圧シリンダ
そ の 他	積載時接地圧 (N[kgf]/cm ²)	3.46 [0.353]
	リフト最大揚程 (mm)	750
	リフト最大荷揚高 (mm)	1260
	ダ ンプ 角 度 (度)	56

外観図



配線図



注文部品の紹介

注文部品のご注文の際は、お買い上げいただきました販売店にご注文ください。

部品名称	部品番号	部品の説明
ロープフック A S S Y	0328-200-001-0	荷台側部の下側にロープを掛けるためのフックです
クローラ (200) オーツ S E T	0328-300-200-0	クローラのパターンが標準と少し異なります。 標準 注文
ランプ (12V-25W)	0328-700-002-0	夜間作業用のランプです。 (25W)
アウトリガ A S S Y	0325-305-000-0A	リフト・ダンプ作業時の転倒防止装置です。
シートカバー (ハワーエース)	0329-930-200-0	機体を雨・風から保護するシートです。

主な消耗部品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上お買いあげいただきました販売店にご注文ください。

部品名称	使用箇所	部品番号
Vベルト (コグ SC30HP4)	エンジンプーリ⇄カウンタプーリ	0329-510-012-0
Vベルト	エンジンプーリ⇄油圧ポンププーリ	V817-200-032-0
Vベルト (コグ SB26HP4)	カウンタプーリ⇄H S Tプーリ	0329-550-011-1A
クローラ (200×38×72)	走後部	0328-350-011-0
アップレール	走後部	0327-329-011-0

索引

あ	アイドルローラ……………	18・36	た	ターンハンドル……………	18・19
	アップレール……………	47		駐車ブレーキ……………	32
	アユミ板……………	10・12		長期格納……………	48・49
	HST用ベルト……………	45・46		チョークレバー……………	18・25
	エンジンオイル……………	39		停車・駐車……………	30
	エンジン型式……………	17		デットマンハンドル……………	18・23
	エンジンの始動……………	25		トラックローラ……………	18・36
	エンジンの停止……………	27			
	エンジン番号……………	17	な	日常の格納……………	48
か	可変速レバー……………	18・20・28・41		燃料コック……………	25・27
	キースイッチ……………	18・26・27		燃料フィルタ……………	39
	給油……………	35・36・37・38	は	発進のしかた……………	28
	グリスアダプタ……………	36		販売型式名……………	17
	グリスアップ……………	36		バッテリー……………	16・41
	クローラの張り調整……………	46		バランス……………	33
	後進ロックレバー……………	18・20		フィルタポット……………	39
さ	最大作業能力……………	33		Vベルトの交換……………	38
	坂道での運転……………	30		補修用部品……………	17
	サービスネット……………	17	ま	前枠開閉フック……………	47
	始業点検……………	24		モノ・	
	新車の保証……………	17		コントロールレバー…	18・19・42
	スロットルレバー…	18・23・25・27	や	油圧ポンプ……………	18・37・43
	製造番号……………	18		油圧レバー……………	18・21
	旋回のしかた……………	29	ら	リコイルスタータ……………	26
	走行クラッチレバー…	18・21・41		リコイルロープ……………	26
	その他走行時の注意……………	32		リフト・ダンブ切換レバー…	18・22
				リフト・ダンブ操作……………	33

困ったり、わからないことがあれば

販売店	_____
住所〒	— _____
TEL	— — _____
担当；	_____

までご連絡ください。

販売型式	_____
製造番号	_____

※ご使用になる前にメモしておくのと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	TEL (089)924-7161 (代) FAX (089)925-0771	
	TEL (089)924-7162 (営業直通)	
東 北 営 業 所	岩手県花巻市北湯口第2地割1-14	〒025-0301
	TEL (0198)29-6322 (代) FAX (0198)29-6323	
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633	〒306-0313
	TEL (0280)84-4231 (代) FAX (0280)84-4233	
中 部 営 業 所	岐阜県大垣市本今5丁目128	〒503-0931
	TEL (0584)89-8141 (代) FAX (0584)89-8155	
中 四 国 支 店	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	TEL (089)924-7162 (代) FAX (089)925-0771	
九 州 営 業 所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1156-17	〒869-1102
	TEL (096)292-3076 (代) FAX (096)292-3423	
部 品 セ ン タ ー	愛媛県松山市馬木町899-6	〒799-2655
	TEL (089)979-5910 (代) FAX (089)979-5950	

部品コード	0329-940-015-1A
-------	-----------------